

ニ Vasilieff (外務部官吏極東課勤務)ヲ任命ノ件
變更ノ理由、横浜ハ日露貿易上重大ナラス小樽商業會議所
等ヨリ請願アリ小樽ハ露領漁業ニ密接ナル關係アリ

尚日本側ニ於テモ現ニ外国領事ノ駐在シ居ル地点ニ日本領
事館ノ予定地ヲ變更シ得ルコト

(三)釜山ニ領事館開設ノ件

理由、同地ハ朝鮮鐵道ノ終点ニ當リ鐵道連絡協定成立ノ上
ハ日本ト大陸トノ連絡地点トシテ重要ナリ

之カ交換条件トシテ日本モ連邦内ノ希望スル地点ニ領事館
ヲ開設シ得ルコト

領事ノ任命ニ付テハ同意ヲ求ムルノ要ナキニ依リ前記(一)及
(二)ノ人選ニ付テハ其ノ意味ヲ以テ別ニ挨拶セサル方然ル可
シト思考スルモ口頭ニテモ同意ヲ与フルトセハ今後我領事
ニ付テモ任命前口頭ニテ先方ニ通知スルノ要アル可シ右ノ
点如何ニスヘキヤ併セテ御回訓ヲ乞フ尚其ノ他ノ点ニ付テ
ハ後日ノ為文書ヲ以テ回答スル積ナリ

2 ソ連邦通商代表部設置問題

京ニ「ソヴィエツト」大使館ヲ設置スルコトナリ若シ此
種代表者ヲ派遣セサレハ折角ノ国交回復モ其意味ヲ為サス
日露兩國ノ為少シモ利益トナラサルヲ以テ「ヤンソン」ノ
如キモノヲ特派スル次第ノ処其資格ハ「アタシエ、コンメ
ルシアール」ヲ利トスルモ其職務ハ例ヘハ日本ノ在外商務
官トハ全然其趣ヲ異ニシ實際取引ノ衝ニ當ルモノナルカ故
ニ其部員等モ比較的多数ニ上ルハ已ヲ得ス又将来兩國間ノ
通商増大セハ独立ノ通商代表部ヲ置キ政府部員ノ外政府ノ
間接經營ニ係ル特許会社代表者ヲモ派遣シ大規模ノモノト
スルコトアルヤモ計リ難キモノハ他日ノ話ニテ差当リ商務
官名義ニテ之ニ必要ノ人員ヲ付スル考ヘナリト言ヘリ

右ニ對シ本官ハ貴說御尤モニシテ帝國政府モ日露兩國間ノ
通商促進ヲ希望シ居ルハ本官ノ之迄承知セル限り疑ヲ容レ
サル処ナルモ他方国交回復ト共ニ一時ニ多数ノ「ソヴィエ
ツト」大使館員若ハ通商代表部員ノ乗り込ムハ少シク考ヘ
モノニテ或ハ之レカ為メ無用ノ不安ヲ与ヘ折角良好ナル日
本對露輿論ニ對シ動揺ヲ与ヘストモ限ラス故ニ「ヤンソ
ン」一行ノ出発ニ關シテモ予メ了解ヲ得置ク方双方ノ為利
益ト思考スル旨ヲ述ヘ暗ニ在支公使宛貴電第一三六号末段

四三九 四月二十一日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ヤンソンノ通商代表トシテノ資格及ビ通商代
表部員ノ数等ノ疑問ニ關シチチェリンヨリ回
答ノ件

第六三号

(四月二十二日接受)

二十日「チチェリン」ニ面会ノ序ヲ以テ貴電第四二号「ヤ
ンソン」任命ノ資格ヲ尋ネ且果シテ通商代表ニ任命セラレ
タルモノトセハ帝國政府ハ予メ其資格特權並外交官ノ特權
ヲ受クヘキ代表部員数等ニ就キ協定ヲ遂ケタキ希望ニ付同
氏一行本邦入国査証ニ關シテモ本官ハ一応本國政府ノ指令
ヲ仰キタル上ニアラサレハ之ヲ付与スル權限ヲ有セス右ニ
就キ後日ノ誤解ヲ避クル為同氏及同氏一行ノ資格人員等本
官迄通知アリタク然ラハ直ニ本國政府ヘ移牒スヘシト申入
レタル処「チ」氏ハ之ニ對シ「ヤンソン」ハ「アタシエ、
コンメルシアール」トシテ東京ニ赴クコトハ承知シ居ルモ
猶一応關係官庁ニ問合ノ上其資格人員等ニ就キ回答スヘシ
ト答ヘ且「ソヴィエツト」政府ハ外国貿易ヲ國營トスル關
係上政府ノ貿易代表者ヲ外国ニ派遣スルノ必要アリ今回東

ノ意味ヲ匂ハセ置キタリ尚「チ」ノ漏シタル処ニ依レハ
「ヤンソン」ノ滞在ハ三、四ヶ月ニテ一応本邦実業家トノ
關係ヲ付ケタル後帰國スルモノノ如シ

四四〇 五月六日

在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連貿易代表部ノ本邦開設ニ對スル政府意見
請訓ノ件

別電

五月六日在ソ連邦佐藤臨時代理大使宛幣原外務
大臣電報第九五号

貿易代表部開設ニ關スルソ連邦極東課長覺書

第九四号

(五月七日接受)

貴電第四二号ニ關シ

本五日極東課長ハ別電第九五号ノ通り覺書ヲ本官ニ手交シ
帝國政府ニ於テ右覺書記載ノ職務及特權ヲ有スル貿易代表
部ヲ開設スルコトニ御異存ナキニ於テハ「ヤンソン」以下
部長及部員ヲ任命シ速ニ本邦ニ赴任セシメタキ旨申添ヘタ
ルニ付本官ハ他國ノ実例ヲ引用シ貿易代表部ノ開設及其ノ
職務人員特權等ニ關シテハ通商條約又ハ協定中ニ特別ノ規
定ヲ設クルヲ普通トセスヤト反問セシ処先方ハ日露經濟關

係ノ頗ル密接ナルニ顧ミ此際右覚書ノ趣旨ニ依リ帝国政府トノ間ニ一時的了解ヲ遂ケ速ニ貿易代表部ヲ開設シ日露通商ノ発達ヲ計リ度旨申述ヘタリ就テハ本件ニ関シ先方ヘ回答振至急御電訓ヲ請フ

尚貿易代表部ニ関シ他日締結セラルヘキ通商条約中ニ特別ノ規定ヲ設クル必要アラハ本件仮協定ノ趣旨ニ依リ右様取計フヘキ旨予メ勞農側ノ同意ヲ取付ケ置クコト不可能ナラスト信ス

(別電)

五月六日在ソ連邦佐藤臨時代理大使發幣原外務大臣宛電報第九五号

貿易代表部開設ニ関スルソ連邦極東課長覚書

第九五号

(五月七日接受)

「ソビエツト」社会主義共和国連邦政府ハ「ソビエツト」社会主義共和国連邦ト日本トノ間ニ速ニ完全ナル貿易及經濟關係ヲ復活セシメン事ヲ希望シ「ソビエツト」社会主義共和国連邦ト諸外国トノ間ノ実例ニ則リ速ニ日本ニ貿易代表部ヲ開設セント欲ス

「ソビエツト」社会主義共和国連邦憲法ニ依レハ外国貿易ノ專營(モノポリ)ハ国家ノ權能ニ屬ス從テ外国ニ於テハ

本ノ現行法ニ依リ之ヲ解決ス

編註

大正十四年四月十七日幣原外務大臣発在ソ連邦佐藤臨時代理大使宛電報第四二号ヲ省略シタガ、ソノ要旨ハ駐日通商代表予定者ヤンソン等ニ対シ先方ヨリ査証請求等ノ申出ガアレバ事情ヲ具シ請訓セヨトノ訓令デア

ル

四四一

五月二十七日

在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

貿易代表部開設ニ関スル政府ノ見解ヲ速力ニ

回報アリタキ件

第一五六号

(五月二十八日接受)

往電第九四号ニ関シ

未タ御回訓ニ接セサル処実ハ今日迄極東課長ヨリ帝国政府ノ回答ニ関シ再三督促ヲ受ケ居リ依テ已ムヲ得ス往電第一(編註)一六号ヲ以テ一応急速回訓方申進シタル次第第二有之此上回答ヲ遷延セシムルハ甚タ面白カラスト思考セラルルニ付未タ御決定前ナラハ御詮議ノ成行丈ケニテモ御内報ヲ得タク何分ノ御回電ヲ請フ

編註

五月十八日モスクワ発同十九日日本省着佐藤臨時代理大使來電第一一六号ヲ省略シタガ往電第九四号、九五号

一三 日ソ外交関係ノ開始 四四一 四四二

右ノ希望ヲ實現スル貿易代表部ハ「ソビエツト」社会主義共和国連邦大使館ノ一部ヲ構成ス貿易代表部ノ職務ニ屬スル事項左ノ如シ

「ソビエツト」社会主義共和国連邦ト日本トノ間ニ於ケル貿易及經濟關係ノ發展ヲ援助スル事

「ソビエツト」社会主義共和国連邦ト日本トノ間ニ於ケル貿易ノ調節

「ソビエツト」社会主義共和国連邦ノ名ヲ以テ日本ノ領土内ニテ商取引ヲ行フ事

前述セル貿易代表部ノ性質及同部ノ法律上ノ地位ニ基キ貿易代表、貿易代表代理及貿易代表部参与會員(「ソビエツト・チレン」)「参与會員ノ數ハ貿易代表部及其ノ支部開設後判明ス」ハ大使館員ノ有スル総テノ權利及特權ヲ享有シ貿易代表部ノ建物ハ治外法權ヲ享有ス参与會員以外ノ貿易代表部員ハ大使館技術の事務員(書記、「タイプリスト」等ノ如シ)ト同一ノ權利及免除ヲ享有ス貿易代表部ノ取結ヘル商取引ニ対シテハ「ソビエツト」社会主義共和国連邦自ラ其ノ責ニ任ス貿易代表部カ日本ニ於テ日本臣民ト取結ヘル商取引ニ関シ起ルコトアルヘキ爭議ハ商取引ニ関スル日

ニ関シ至急回示ヲ求メタモノ。「五月十三日コップヨリモ申出ノ次第アリ」トノ本省側ノ書入レガアル

四四二

六月二日

幣原外務大臣ヨリ
在ソ連邦佐藤臨時代理大使宛(電報)

外国貿易國營ヲ建前トスルソ連側ノ申出ハ承

認シ得ザルタメ之ニ代ハル弁法提案方訓令ノ

件

第一一三号

貴電第九四号ニ関シ

先方ニ於テハ外国貿易ノ專營ヲ国家ノ權能ニ屬セシメ居レル關係上貴電ノ如キ申出ヲ為スハ当然ト思考シ居ルヘキモ我法制ハ全然之ト異ナルヲ以テ外交官ノ特權ヲ有スル貿易代表部員ヲシテ治外法權ヲ有スル建物内ニ於テ商取引ヲ行ハシムルコトハ遽ニ之ヲ承認シ得サル次第ナリ就テハ本件正式ノ解決ハ通商条約談判ノ際ニ讓ルコトトシ差当リノ弁法トシテハ貿易代表部員二三名ヲ諸外国ノ Commercial Attaché 又ハ Commercial Councillor (Secretary) ト同一性質ヲ有スルモノト看倣シ之ニ外交官ノ特權ヲ与ヘ又右部員ノ自ラ執ルヘキ職務ハ貴電第九五号ノ(一)ニ掲ケタル職

務事項中一、兩國間貿易及經濟關係ノ發展ヲ援助スルコト及二、兩國貿易ノ調節（輸出入ノ許可ヲ謂フモノト解ス）ニ限ルコトト致度シ而シテ日本領土内ニ於ケル商取引ハ前記外交官ノ特權ヲ有スル代表者自ラ之ヲ行ハス此ノ如キ特權ヲ有セサル者ヲ通シ治外法權ヲ享有セサル場所ニ於テ之ヲ行ハシムルコトトスルヲ適當トスヘシト認メラル

就テハ右ノ趣旨ニ依リ先方ト應對セラレタク尙當方ニ於テ露國トノ貿易ヲ如何ニスヘキヤニ付テハ折角考慮中ナルカ貴官ハ適當ノ機會ニ於テ全然貴官一個ノ思付トシテ試ミニ倫敦ニ在ル「アルコス」又ハ「ツェントロ・ソユース」ノ如ク我法制ニ拠ル会社ニシテ成ルヘク日露合併ノモノヲ本邦ニ設ケ之ヲ通シテ取引ヲ為スカ如キ案ニ對スル先方ノ意見ヲ叩カレ結果電報アリタシ

四四三 六月九日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

商業代表部設置問題等ニ關スルチチェリント
ノ会谈内容報告ノ件

第一九五号 （六月十一日接受）
八日「チチェリン」ヨリ閑談ノ機ヲ得タシトテ昼餐ノ案内

機關ヲ外國ニ設ケ自ラ商取引ニ當ラシムルハ又當然ノ結果ニシテ獨、英、伊諸國ニ於ケル実例皆此方針ニ依リ商業代表部ヲ設ケ聊カノ不都合ナシ而シテ之等諸外國ニ於ケル代表部ハ皆獨立セル一機關ニシテ自ラ其ノ名ニ於テ商取引ヲ締結シ其ノ結果ニ對シテハ勞農政府自身其責ニ任ス日本政府ニ於テハ不可侵權ヲ有スル商業代表ノ締結スル諸般ノ契約ニ對シ一見不安ノ念ヲ有セラルルカ如キモ實際ハ然ラス前述諸外國ノ例ニ於テ未タ嘗テ契約履行上ノ愉快ノ問題ヲ生シタルコトナク從テ不履行ニ依ル外交上ノ問題ヲ起シタルコトナシ（此点ニ關シテハ当地各國代表者ヨリ本官ノ聞知セル処ニ依ルモ外國貿易部ノ一旦締結セル契約ハ忠實ニ履行セラルトノ定評アリ）

日本政府ノ躊躇スル主タル点ハ日本法制上ノ疑点ニアル由ノ処果シテ然リトセハ既ニ「テクニク」ノ問題ニシテ専門家ノ研究ニ委シ數日中ニ解決セラルヘク何モ通商條約締結ノ時迄待ツ必要ヲ見ス條約締結ノ交渉ハ種々込ミ入りタル問題ヲ生シ可ナリ長引クヲ常トスルカ故ニ此間手ヲ空シクシテ商關係ヲ付ケサルハ甚タ策ヲ得タルモノニアラス勞農側ハ通商條約問題トハ獨立シテ急速本件ヲ解決シ可成速ニ

ヲ受ケ極東課長ト三名会食先方ヨリ一、二重要問題ニ付話ヲ切出セリ会谈ノ要領左ノ通尚「チ」ヨリ田中大使ノ赴任期ニ付尋ネタルニ付本官ハ今日迄知ル所ナキモ事務所用品ノ攜帶ヲ要ス可キモノニ付問合セアリタルニ付同大使ニ於テ着々出発ノ準備中ト思考スル旨答ヘ置キタリ（中略）

商業代表部設置問題

本件ニ關シテハ曩ニ貴電第一一三号接到ト共ニ極東課長ヘ詳細口頭ヲ以テ御訓令ノ趣旨傳達セル処頗ル不平ノ模様ニテ元來本件ハ日本ノ方カ比較的大ナル利益ヲ享受スル筈ナルニ拘ハラス該代表者ノ權限ヲ商務官程度ニ低減シ獨立機關タル根本條件ヲ拒否セラレタルハ如何ニモ遺憾トスル処ナルモ何レ當局者ト相談ノ上何分ノ回答ヲナス可シト述ヘタルコトアリ詳細成行ハ右回答ヲ得タル後電報致ス可キ考ナリシ処本日ノ会合ニテ「チ」ヨリ本件ニ言及シ國交樹立ト共ニ兩國間經濟關係ヲ回復シ互ニ現實ナル利益ヲ得ントスル露國側ノ計畫ニ對シ日本政府ヨリ問題ノ根本ニ關シ贊成ヲ得サルハ甚タ遺憾トスル処ナリ外國貿易ヲ國營トセルハ勞農露國建國ノ根本方（針ニシテ如何？）ナル場合ニ於テモ此方針ハ變化スルモノニアラス外國貿易カ國營ナル關係上特立セル

東京ニ通商代表部ノ設置ヲ見シコトヲ欲スルモノナリト言ヘリ之ニ對シテハ本官ハ各方面ニ亘ル全權ノ委任ヲ受ケ赴任セラルヘキ田中大使ノ來着ヲ待チ本件審議決定スルヲ最モ捷徑ト信スルモ急速解決ヲ欲スル「チ」氏ノ希望ハ直ニ本國政府ニ取次クヘシト答ヘ置キタリ本件ニ關シテハ別電ヲ以テ卑見申上ケ御採決ヲ仰クヘシ

三時間ニ亘ル会合ノ要領ハ大体上述ノ通ナル処辭去ニ當リ「チ」氏ハ日露兩國間ニハ幸ニシテ國策上根本的利害ノ衝突ナク仮令兩國間ニ解決ヲ見サル問題アリトスルモ其ハ地方的意義ヲ有スルモノニ過キス

日本トノ國交増進ハ英國トノ夫レニ比シ遙ニ容易ナリ右ハ兩國ノ為メ祝福ニ堪ヘスト付言セリ（以下略）

編註 本來電第一九五号ノ中洮昂鐵道問題、南滿東支兩鐵道關係及ビ末尾ノ部分ヲ省略シタ

四四四 六月十一日 在ソ連邦佐藤臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

ソ連側ガ通商代表部ノ早期設置ヲ希望シ居ル

ニ對シ我方ノ対策具申ノ件

第二〇〇号 （六月十三日接受）

往電第一九五号ニ関シ

「チチェリン」ノ談話ヨリ察スレハ労働側ハ頻リニ日本ニ通商代表部ノ設置ヲ希望シ居ルモノノ如ク其理由ハ単ニ本邦トノ通商開始ヲ促進セントスル表面上ノ理由ノ外諸列強ニ対スル体面ヲ繕フ必要アルコト及外国貿易部ヨリノ圧迫ニ依リ外務部ニ於テ急キ居ルコト等ノ裏面ノ事由アルニアラスヤト想像セラレ他方本邦側ニテ右通商代表部ノ開設許可ヲ躊躇セラルル所以ハ貴電第一一三号所載本邦法制上ノ困難ノ外同代表部ノ特權ノ下ニ庇護セラルヘキ過激派宣伝ノ危険ヲ慮ラルルコトト察セラレ曩ニ伯林ニ於ケル商業代表部ノ行動及不可侵權ニ関シ露獨両国間ニ重要ナル外交問題ヲ惹起シタル先例モアリ右様ノ危惧ハ御尤ノコトト存セラルルモ兩國法制ノ相違ヨリ生スル疑義ニ就テハ或ハ労働政府ヨリ専門家ヲ日本ニ派シ直接本邦当局者ト接触研究ニ当ラシメハ其ノ解決法ヲ見出スコト左シテ困難ナラサルヘク宣伝ノ危険ニ至リテハ労働大使館設置ノ今日既ニ五十歩百歩ニテ彼等ニシテ宣伝ヲ欲スレハ商業代表部ナクトモ大使館内ニテ其ノ準備ヲ為シ得ヘク代表部ノ開設ニ依リ其危険ノ程度ニ左程大ナル差異アル可シトモ思ハレス要ハ代表

付記 七月十五日コップ大使来談要録

第三〇六号

(八月一日接受)

七月二十八日及三十日ニ「ヤンソン」氏ト訪問ヲ交換セルカ右二回ノ会見ニ於テ話頭ニ上リタル貿易代表問題ニ関シ「ヤ」ハ

(一)同人カ右代表ニ任命セラレ居ル為個人的ニモ利害關係ヲ有スルモ右ハ暫ク措キ元來露国側トシテハ新年度ノ始期タル十月一日迄ニ該年度内ニ於テ輸出スヘキ物資ニ付予算ヲ立ツル次第ナルカ本件未決ノ為日本ノ輸出入ハ勿論之ニ関連シ他国トノ輸出入計画ヲモ確定シ難キ実情ナリトテ本件ノ急速解決方ヲ希望シ

(二)特權主張理由トシテハ露国ハ外国貿易ヲ以テ国家ノ存立ニ関スル重要事項ト認メ国家ノ独占ト為シ居ル關係上之ニ関スル諸般ノ計画ハ「ステート・シークレット」ニ属スルモノナルカ貿易代表ハ右計画ニ参与スルハ勿論之ニ関スル書類ヲ有シ且右ニ從ヒ執務スルモノナルヲ以テ一定ノ特權享受ヲ要求スル次第ナリト説キ

(三)右特權ハ代表ノ外主要幹部員数名ニ対シ与ヘラルレハ可ナリ而シテ

部ニ於ケル特權享受者ノ数ヲ適當ニ制限スルニアリト思考ス本件代表部ノ開設ハ本邦側ニテハ取急カルル必要ナキヤモ計リ難キモ先方ニテハ頻ニ希望シ居ル事ニモアリ又早晚本邦側ニテモ解決セサルヲ得サル問題ニ付寧ロ「チ」ノ希望通り通商条約談判トハ切離シ今ノ内ニ先方ノ満足ヲ与ヘ置ク方來ルヘキ利權細目交渉ノ懸引上有利ナル可シト思考ス尤モ交換条件トシテ本邦側ニ何等留保スヘキ条件アラハ之亦此際先方ヘ提示スルヲ要ス可シ尚貴電第一一三号末段「アルコス」類似ノ会社ヲ設置スル案ハ「チ」トノ會談ニ於テ在本邦通商代表部力完全ニ存立シ自己ノ名ニ於テ商事契約ヲ締結シ得ルニ至ラハ此種ノ日本法ニ依ル合弁会社又ハ純露国資本ノ会社ヲ設立スルニハ些モ異存ナク又其ノ方利益ト思考スル旨ヲ語レリ但シ通商代表部ヲ設ケシテ此種会社ノミヲ設立營業セシムルニハ絶対反対ノ模様ナリ支那、英、仏、獨、「リガ」ヘ転報セリ

四四五 七月三十一日

在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ソ連邦貿易代表部員ノ外交特權付与ニ関シヤ
ンソント意見交換ノ件

(四)一定ノ特權トハ原則トシテ外交官ニ対スルト同様ノ特權ヲ言フモノナルモ

(イ)司法上ノ關係ニ付代表ノ行フ高取引ハ当然日本ノ法令ニ準拠スヘキヲ以テ或ル事件ニ付繫争起ラハ代表自身裁判所ニ出廷シ尋問ニ応スルハ勿論証憑書類ノ檢分又ハ提出ニモ応スヘキモ右ハ単ニ繫争事件ニ関スル部分ノミニ止リ他ノ事實ヲモ併記セル帳簿又ハ書類全体ノ檢閱又ハ提出ハ勿論家宅搜索ノ如キハ絶対ニ否認シタシ

(ロ)課税ニ付テハ代表ヨリ取引高等ニ付申告スヘク右ニ基キ日本法令ニ依ル税金及公課ニ服シ差支ナシ

(ハ)事務所ノ不可侵ニ付本使ハ所謂「ステート・シークレット」タル計画ヲ蔵スル部分丈ケニテ足ルヘク現実ニ取引ヲ行フ場所ノ如キハ格別不可侵權ヲ要求スル理由ナキヤニ考フル旨試ミニ詰リタルニ事務所内ニ於ケル仕事ハ彼是関連シ居ルニ付是非全体ニ付特權ヲ得タシト答ヘ尚

(四)合弁会社案ニ付テハ強イテ反対セサルモ日本ニ赴任後実情調査ノ上考慮スルコトト致シタシト述ヘ又

(六)本使ハ日本モ露国ト同様ニ輸出ヲ奨励スヘキ地位ニアルニ鑑ミ日本カ露国ヨリ輸入スル額ト略々同額ノ物資ヲ露国モ亦日本ヨリ購入スルカ又ハ少クトモ申請アラハ其ノ露国ヘノ輸入ヲ認可スヘキコトトナス等何等カ日本側ニ對シ有利ナル条件ヲ与ヘ以テ露国側要望ノ特權ニ對スル代償トナス意向又ハ考案ナキヤト試ニ問ヒタルニ「ヤ」ハ極東方面ハ未タ購買力甚タ乏シク又歐露方面ハ他国トノ關係アルニ付差当リ斯ル考案ノ実行困難ナルヘキモ「ヤ」トシテハ出来得ル限り日本ヨリ多額ノ物資購入ノ希望ヲ有シ居リ其ノ赴任ヲ急キ居ルモ一ハ其ノ為ナリト逃ケ頻リニ代表資格問題ノ即決ヲ促シタリ本使ハ右会谈ニ於テ本件ハ折角東京ニ於テ交渉中ニ属シ且本使東京出發後ノ成行ヲ承知セサルニ付今直ニ之ヲ取上ケテ解決ニ当ルヘキ立場ニアラサルモ出来得ル限り本件ノ即決ニ助力スヘク尚本使ノ試ミタル質問等ハ全然本使限りノ思付ニ過キサルモノナリトテ然ルヘク応酬シ置キタリ本件解決ノ遲延ハ種々ノ点ヨリ面白カラサルヘキニ付貴地ニ於ケル本件其後ノ成行及何等心得置クヘキ点アラハ電報アリタシ

或ル一国ト同盟又ハ之レニ類似ノ特殊条約ヲ締結セント考ヘタルコトナク且ツ斯カル意図ヲ今モ有セサルヲ断言ス右ハ恐ラク對支問題ニ關連シ此程来「エリオット」英國大使カ再三予ヲ來訪シタルコトアルニヨリ之レヲ誤解シテ新聞カナセル根拠ナキ風説ナラン

「コップ」

左ル事ト乍考貴宣明ニヨリ充分諒解セリ尚此種新聞ハ對支問題ニ關シ日英米ノ三国協調說ニ關スル芳沢公使ノ「インターヴュー」ヲ掲ケ居タル処右ニ對スル貴見如何為念伺ヒ度シ

大臣

予ハ該「インターヴュー」ナルモノノ内容ヲ知ラサルモ思フニ三国協調云々ハ主トシテ上海事件ノ解決上同伴ニ最も密接ノ利害關係ヲ有スルモノ即チ最も多ク損害ヲ蒙リ居ル日本及ヒ同地行政機關乃至實際上ノ利害關係ヲ有スル英米ノ三国カ互ニ意思ノ疎通ト意見ノ交換ヲ計ルハ事件ノ解決上緊要ナルヲ以テ此意味ニ於テ臨機酌量ニ三國間ノ協調ヲ保ツコトニナセルカ芳沢ハ此意味ニテ語レルモノナラン然カモ協調ト言フモ何等特殊ノ「コンビネーション」

(付記)

「コップ」大使來談要録

大正十四年七月十五日 自午後三時二十分至同六時二十分

通訳「スバルヴィン」博士、渡辺領事

主客間ニ挨拶交換ノ後

「コップ」

新聞電報ハ田中大使ノ着任ニ關シ詳細報道セル処貴大臣ハ詳電ニ接シ居ラルルヤ何分該報ハ日露兩國今後ノ親善關係進展上良好ナル前徴トシテ之レヲ祝フ

大臣

予ハ大使着任ノ電報ニ接セルモ其他ノ詳報ハ新聞ニヨリ承知セルカ兩國將來ノ為メ同慶ス

「コップ」

乍早速最近諸新聞ハ日英兩國間ニ同盟復旧乃至特殊協約ニ關シ何等商議セラレアルヤニ報道セル処右ニ關シ貴政府ハ從來ノ御方針ニ何等變更之ナキヤ余ハ其然ラサルヲ信スルモ為念承ハリ度シ

大臣

斯カル事實絶対ニナシ自分ハ第三者ニ對抗ノ目的ヲ以テ

「コップ」又ハ團結ヲ作リテ第三者ニ對抗スルカ如キ目的ニアラサルヤ論ナシ

「コップ」

貴大臣ノ明快ナル御説明ニヨリ充分諒解セリ(トテ前記二問ノ説明ニヨリ安堵満足ノ意ヲ表シツツ更ニ話題ヲ転シテ)

次ニ予テ懸案トナリ居ル我商務代表問題ニ關シテハ「モスコ」ニ報告ノ要モアルニ付キ其後ノ成行如何承ハリ度シ

大臣

本問題ニ對シテハ我方トシテ何等變ハリタルコトナシ兩國通商關係増進上同代表ノ來邦ハ最も望マシキ事ニ属シ我方カ之レニ對シ何等異議ヲ有セサルノミナラス大ニ歡迎スル処ナルハ論ナシ但シ我嚴正ナル法規範圍ニ於テ通商ノ自由、營業ノ權利カ完全ニ保護サレアリ現ニ英米等外國人カ多年何等ノ不安ナク且ツ満足ニ我國ニ於テ商業ニ從事セルニ關ラス独リ貴國通商機關ノミ外交官ニ限り付与サルヘキ特權ヲ要求セラルルノ理由ハ予ノ今ニ了解シ得サル処ナリ

「コップ」

労働商務代表機関ハ我国ノ外国貿易「モノポリ」制度ニ基ク国際取引上緊要ナル機関ニシテ大使館ノ一部ヲ構成シ居リ既ニ条約關係ヲ有スル各国ハ相当員數ノ駐在ヲ認メアリ現ニ駐在国側ニ取りテモ有利ニシテ其成績良好ナルモノアルニヨリ日本モ同様之レヲ認メラレ度シ該機關ハ国家計画ニ基ク対外重要貿易ヲ掌ルモノニテ取引上国家の秘密ヲ有スルニヨリ普通商社ト異ナレル不可侵等特權ヲ要スル次第ナリ尤モ同機關ノ存在カ日本当業者ニ何等危懼ヲ与ヘサルノミナラス取引ニ一層安心ト便利ヲ与フルハ論ナク又該機關責任者ハ其ノ商的行為ニ関シテハ民事上商事上駐在国ノ法權ニ服スヘキハ勿論ナリ

大臣

他ノ条約国カ容認セルカラトテ日本カ之レニ応スヘキ理由ヲ認メス既述ノ通り公益ヲ害スル行為アルニ対シ適法ノ手續ニヨル捜査等ノ場合乃至特ニ法規ニヨリ認メラレアル銀行検査等ノ場合以外個人商業ニ対シ完全ニ不可侵權等ノ保証サレアル我国ニ於テ同機關カ普通商業ヲ営ムニ対シ自己ヲ我法權ノ治外ニ置カントスル特權ヲ要求サ

ルル理由ハ首肯シ難キ処ナリ元来我国ハ往年治外法權撤廢以来何国ニ対シテモ特權ヲ付与スルヲ欲セサル国情ト歴史ヲ有スルニヨリ国際慣例上一般ニ認メラレアル外交官以外ノモノニ対シ新タニ斯カル特權ヲ付与シ能ハサルヲ諒トセラレ度シ試ミニ問ハン貴商務代表官カ取引ニ関シ刑事被告トナリタル場合如何又我国ヨリモ国家の重要取引(例セハ巨額ノ鉄道其他ノ材料購入ノ為メ)ノ任務ヲ帶ヘル官吏ヲ貴国ヘ派遣スル場合貴方ハ外交官ノ特權ヲ与フルヤ我方ハ從來如斯場合何等特權ヲ要求シ居ラサルモ曾テ不都合アリシコトナシ尤モ貴方ニ於ケル該官吏ト大使トノ隸屬、資格其他内部の關係如何ニ対シテ我方ハ何等関知スル処ニアラサルモ外部ニ対シ特權ヲ主張サル場合之レヲ承認シ得サル次第ナリ換言スレハ大使館員カ商的行為ヲナスニ至リ直チニ個人人格ニ落ツルヲ以テ該官吏ハ外交官ノ特權ヲ失スルヲ至当ト認ム此点ニ於テ貴方現制度ノ儘ニテハ我方ニ容レラレサル次第ナリ

「コップ」

我商務代表機関ハ既述ノ通り大使館ノ不可分の一部ヲナスモノニシテ其下級屬員以外ノ幹部(国ニヨリ兩三名乃

大臣

至五六名)ハ大使館書記官ト同格ニアリ之ハ労働法令ニヨリ制定サレアルモノ故部分的ニ變更スルヲ得ス右法令ハ千九百二十二年中發布サレ多分手許ニアリト思フニヨリ發見次第貴覽ニ供スヘシ貴示刑事犯事件ノ場合ノ如キハ理論的ニハ談シ得ヘキモ實際有リ得ヘカラルコトニ屬ス尤モ万一之アル場合ハ我国家カ其責ニ任スヘシ又貴説国家の重大注文ノ任務ヲ有スル官吏ニ対シテハ相当ノ特典ヲ提供シ得ヘシ何分我商務代表機関ヲ認メラレサルニ於テハ之レヲ派遣セサルニ如カス斯クテハ遂ニ我貿易機能ヲ發揮スルヲ得ス兩國通商不能ニ陥ルヘキ次第故本件ハ我方モ既ニ交渉ニ入レル行掛リモアリ今更此儘ニナシ兼ヌルヲ以テ我法令モ御一覽篤ト御考量ヲ煩ハシ度シ居タルカ)

「コップ」

本件ニ関シテハ長時間ノ談議モ遂ニ満足ナル結果ヲ見ル
一三 日ソ外交関係ノ開始 四四六

編註 本来談要録ノ商務代表部開設問題ハ要約ノ上、七月二十五日付通一機密第一五号ヲ以テ幣原外務大臣ヨリ在ソ連邦田中大使ニ送付サレタ

四四六 八月二十五日

幣原外務大臣ヨリ
在ソ連邦田中大使宛

商務代表部開設問題ニ関スルコップ大使トノ

談話要領送付ノ件

付記一

八月二十一日コップ大使トノ会見要領(通商代表問題)

二

九月十七日コップ大使ヨリ大臣ヘ手交サレタル貿易代表部ニ関スル書簡及ビ同訳文

通一機密第一八号

貿易代表ニ関スル件

往電第二三六号記載ノ七月二十一日「コップ」大使トノ談

話要領別紙ノ通付ス

(別紙)

商務代表開設ニ関シ「コップ」大使ト会談要録

七月二十一日「コップ」大使来訪商務代表開設問題ニ関シ本件ハ商務代表以下ノ人員任命ノ都合ト本年收穫期差逼リ一般輸出入計画ヲ立ツル必要上急速解決致度ニ付形式的ノ規定ハ通商条約締結ノ際ニ譲リ其迄ノ暫行取極トシテ左記三項ヲ挙ケ本大臣ノ保証ヲ求メタリ

一、「ソヴィエト」商務代表ノ業務執行ニ対シ日本政府ハ何等妨害ヲ加ヘス就中商務代表ノ館舎ノ不可侵權ヲ認メラレタキコト

二、商務代表及其館員ヲ大使館員ト認ムルコト

三、商務代表ノ締結スル商取引ニ対シテハ日本法規ノ規定ニ從ヒ之ニ対シテハ国庫ニ於テ其實ニ任シ商務代表ノ所有スル商品倉庫其他ノ財産ハ日本法律ノ定ムル所ニ從ヒ直ニ之ヲ差押及処分ヲ為スコトヲ得ヘキコトヲ通告ス
右ニ対シ本大臣ハ前回会談ノ際ニ述ヘタル趣旨ヲ反覆説明シ当方トシテハ「ソヴィエト」政府カ外交官ノ特權賦与ヲ要求セサルニ於テハ直ニ商務代表ノ開設ヲ許スハ勿論ナリ

無益ニ歸スヘキコトヲ説明シタルニ「コップ」ハ然ラハ書面ヲ以テ照会シ度シト言ヘルニ付本大臣ハ右ニ対シ当方ハ何等異存ナキモ回答ノ趣旨ハ是迄反覆申述ヘタル範圍ヲ出テサルヘキコトヲ申添ヘ置キタリ

(付記)

八月二十一日「コップ」大使トノ会見要領(通商代表問題)

「コップ」大使ハ前回要望セル三ヶ条中其ノ二ヶ条ハ既ニ承諾ヲ得未タ承諾ヲ得ルニ至ラスシテ残レル点ハ唯一ヶ条ノミナル旨ヲ述ヘタルニ付当方トシテハ何等承諾ヲ与ヘタルコトナシ若シ既ニ承諾ヲ与ヘタリトセハ問題ハ最早解決シ何モノモ残ラサル筈ナルカスル承諾ヲ与ヘタルコトハ絶對ニ之レナキ旨言明シタルトコロ

「コップ」大使ハ是迄主張シ来レル左ノ諸点ヲ又々反覆主張セリ

一、貿易代表及其代理官ヲ大使館員トシテ外交官ノ特權ヲ受クルコトトシタシ

二、貿易代表ハ国ノ名ニ於テ商事契約ヲ締結シ商取引ヲ為スコトヲ得ルコトトシタシ

三、貿易代表ハ外国貿易カ国家ノ「モノポリー」トナリ居

一三 日ソ外交関係ノ開始 四四六

「ソヴィエト」商務代表ニ此特權ヲ認ムルコトハ日本法律ノ適用ニ例外ヲ設クルコトトナルヘキヲ以テ本大臣ハ此ノ如キ保証ヲ与フルノ地位ニ在ラサルコト又仮令商務代表ニ外交官ノ特權ヲ与フルコトヲ保障スルモ之カ条約ニ非サル限り右保障ハ司法權ノ發動ヲ拘束スルコト能ハス尚若シ「ソヴィエト」政府カ通商条約締結ノ際ニ右様特權ヲ要求セラルルニ於テハ該条約ノ締結モ困難ナルヘシト思考セララル旨ヲ答ヘタルニ「コップ」大使ハ實際方法トシテ若シ商務代表及其館員ニ不都合ノ行為アル場合ニハ其者ノ召還ヲ請求スルカ如キ手段ヲ執ルコトトシテ右二項ヲ承認セラレ度シト申出タルニ依リ本大臣ハ召還請求ノ如キハ外交官ニモ適用シ得ヘキ当然ノ処置タルコトハ言フ迄モ無キコトトナルヲ以テ当方トシテハ暫行取極トシテハ「ソヴィエト」政府ニ於テ日本ノ法律ヲ信用セハ充分ナリト応酬セルニ「コップ」ハ「ソヴィエト」側トシテモ同様ナレハ紳士協約トシテ本件商務代表開設ヲ許可セラレ度旨ヲ申出タルニ依リ本大臣ハ条約タルト紳士協約タルトヲ問ハス一度約束シタル以上信義ヲ守リ之カ実行ヲ期スル覚悟ナルコト紳士協約ハ司法權發動ノ場合ニ効力無ク結局斯ノ如キ方法ハ

レル關係上其ノ取扱事項カ国家ノ機密ニ關スルコトアルヘキニ付外交官ノ特權ヲ与ヘラルルコトトシタシ

四、他ノ締盟国ニ於テハ貿易代表ニ対シ外交官ノ特權ヲ与ヘ居ルニ付貴国ニ於テモ同様該特權ヲ与ヘラルルコトトシタシ

五、貿易代表及其ノ代理官ハ国法上大使館員トナスコトトナリ居ルニ付大使館員トシテハ貿易代表ノ派遣ヲ承諾セラレタシ若シ貴国ニ於テ之カ承諾ナキ場合ニハ日露間ノ通商關係ノ發達ヲ阻止スルニ至ルヘキコトヲ甚タ遺憾トスルトコロナリ

右主張ニ対シテハ

一、貿易代表カ商務官トシテ其ノ職務ヲ商業上ノ調査トカ商業上ノ仲介ノ任ニ当ルノ事務ニ限局セラレ何等商行為ヲナスコトナキニ於テハ國際慣例ニ從ヒ之ニ外交官ノ待遇ヲ与フルニ何等ノ差支ナシ

二、貿易代表カ商事契約ヲ締結シ商取引ヲ為ス場合ニハ之ニ外交官ノ待遇ヲ与フヘキ國際法上ノ慣例ナキニ依リ外交官トシテ之ヲ承認シ難シ尤モ条約ニ依ル取極アルカ又ハ国内法ノ規定アル場合ニハ別問題ナリ然シ此種ノ条約

ヲ締結スルコトハ到底見込ナシ何トナレハ我方ハ斯ル片務的義務アル例外ヲ作ルコトナルヘケレハナリ我枢密院ノ如キモ斯ル条約ノ締結ヲ承認スルコトナシト信ス又仮令斯ル貿易代表ニ外交官ノ特權ヲ与フルコトヲ本官限り約束シタリトスルモノハ何等ノ効果ナキコトナリ何トナレハ貿易代表ノ行為ニ付キ何等問題起リタル場合ニハ我裁判所ハ国法ニ遵拠シテ処断シ斯ル約束ヲ認ムルコトナケレハナリ

三、貿易代表カ国家ノ名ニ於テ商行為ヲナシ其ノ取扱事項カ国家ノ機密ニ属スルトテ之ニ外交官ノ特權ヲ要求セララル所以ヲ了解ニ苦ムトコロナリ我国ノ如キハ往年国防ノ機密ニ属スル数千万円ノ軍艦ヲ外国ニ註文シタルコトアリシカスル場合ニ海軍士官ヲ当該國ニ派遣シ軍艦製造ノ監督及受領事務ノ為メ彼地ニ事務所ヲ置キタルコトアルモ斯ル場合ニ右海軍士官ニ対シ外交官ノ特權ヲ要求シタルコト未タ曾テ之レナシ而カモ其ノ事務執行上未タ曾テ何等ノ不便ヲ感シタルコトナシ貴國ニ於テモ貿易代表カ我國ニ於テ自由ニ商取引ヲ為ス為ニハ外交官ノ特權ナクトモ何等ノ不便ヲ感セラルルコトナカルヘシト信ス

四、我國ニ於テハ貿易代表カ國際法ノ認ムル商務官ト同様ノ職務ヲ執行スルモノナルニ於テハ商務官トシテ之ニ外交官ノ特權ヲ与フルコトニ異議ナキトコロナルモ貿易代表カ商行ヲ為スモノナルニ於テハ國際法上慣例ナキコトナルニ付之ニ外交官ノ特權ヲ与フルコトハ承認シ難シ

五、露國ノ国法上貿易代表ヲ大使館員中ニ包含セシムルコトトナリ居ルトノコトハ露國国内法ノ規定ニ属スルコトニテ何等我方ノ異議ヲ挟ムヘキ筋合ノモノニアラス從テ国内法上貿易代表ヲ大使館員トナシ之ニ商取引ヲ為サシメラルルコトハ差支ナシトスルモ之ニ外交官ノ特權ヲ与フルコトニハ是迄再三説明シタル通り絶対ニ承認スルコト能ハサルハ遺憾トスルトコロナリ

要スルニ叙上ノ如ク「コップ」大使ノ主張ニ対シテハ是迄反覆説明シタルコトヲ更ニ繰リ返ヘスニ過キサリシトコロスノ如ク双方カ何時迄モ其ノ主張ヲ反覆スルノミニテハ際限ナキコトナルト且当方ノ説明カ言語ノ上ニテハ或ハ徹底セサルコトモアルヘキニ付貴方要望ノ要点ヲ簡單明瞭ニ記述セラレ書面ヲ以テ提示セラレタシ然ラハ当方ヨリモ書面

ned with the realisation of the monopoly of foreign trade, including the transaction of commercial operations.

The Soviet Government assumes upon itself the responsibility of transactions, passed on the name of Trade Delegation and consents that such transactions shall be under jurisdiction of Japanese Courts of Justice, however without application of measures of previous caution of Courts of Justice to the Trade Delegation property.

(右和訳文)

「ソウイェト」政府ハ貿易代表部ノ急速開始ニ関シ日本政府ノ表示セラレタル希望ヲ満足ヲ以テ考量ニ入レ同政府カ近キ将来ニ於テ貿易代表及其ノ代理者三名ヲ任命スヘキコトヲ通知ス右代表及其ノ代理者ハ日本ニ於ケル外交使節部員ノ資格ヲ以テ該使節部ニ入ルヘシ貿易代表部ニハ外国貿易ニ関スル「ソウイェト」法律ノ手續ニ依リ外国貿易ノ独占ノ実行ニ関連スル一切ノ職務ノ遂行就中商取引ヲ担任セシムヘシ

「ソウイェト」政府ハ貿易代表部ノ名ヲ以テ締結セル行為

ヲ以テ我方ノ主張ヲ回答スヘキ旨伝ヘタルトコロ「コップ」大使ハ書面ヲ以テスルコトハ是迄考慮セサリシニアラサルモ書面ヲ以テスルトキハ将来「ヌキサシ」出来サルニ至ルコトナキヤラ慮リ口頭ヲ以テ大体ノ了解ヲ得タキ所存ナリシカ只今御提議ノ次第モアリタルニ付右様取計フコトトスヘシ就テハ先ツ一ノ案ヲ作成シテ貴覽ニ供スルコトトスヘキニ付之ニ充分ノ御是正アリタキ旨答ヘタルニ付之ヲ承諾シ置ケリ

(付記II)

九月十七日コップ大使ヨリ大臣ヘ手交サレタル貿易代表部ニ
関スル書簡及ビ同訳文
(編註)

The Soviet Government takes note—with satisfaction—of the desire, expressed by the Government of Japan, of the undelayed opening of the Trade Delegation and informs, that it will shortly appoint a Trade Delegate and three deputy-delegates, who will form part of the Diplomatic Mission to Japan, as members thereof. The Trade Delegation will perform, conforming to the Soviet legislation on foreign trade, all functions, con-

ニ付其ノ責ニ任シ該行為カ日本裁判所ノ管轄ニ属スヘキモノナルコトニ同意ス但シ予備的司法保障ノ処分ヲ貿易代表部ノ財産ニ適用スルコトナシ

編註 コノ書簡ハ英、仏、露文デ記載サレテイルガココニハ英文ノミヲ採録シタ

四四七 九月十六日 幣原外務大臣ヨリ
在ソ連邦田中大使宛(電報)

日ソ貿易ノ本邦側ノ機關ニ關スル意見回電方

要請ノ件

第二九四号

通商局長ヨリ

露国貿易代表ノ本邦駐在ニ付テハ「コップ」大使ハ依然從來ノ主張ヲ繰返シツツアルニ対シ我方ニ於テハ全然特權ノ賦与ヲ拒絶シ居ルコト御承知ノ通ナル処對露取引上本邦側ニ於テ如何ナル機關ニ依ルコト適當ナルカノ問題ニ關シテハ御出發前御意見ヲ伺ヒタル次第モアリ特權会社案及特別管理委員制度案等種々講究ヲ重ネタルモ商工省ノ贊同ヲ得ルニ至ラス然ルニ一面民間ニ在リテハ取引開始ノ機運漸次進捗スルト共ニ商工省側ノ提唱ニ基ク輸出組合創立ノ準備

キ旨意見具申ノ件

第三九五号

貴電第二九四号ニ關シ

通商局長ヘ

御來示ノ如キ成行ナリトセハ關係者ニ於テ對露輸出組合ノ組織及運用ノ点ハ既ニ相當ノ成案有ルモノト認メラルルニ付此際該組合ノ創立準備ヲ進メシムル事モ一策ナルヘキモ組合ノ創立ト貿易代表問題トハ相關スル所極メテ大ナルニ付本省ニ於テ此種ノ對露貿易機關創設案ヲ支持セラルル場合ハ貿易代表ニ對シ或ル程度ノ特權付与ノ方針ヲ取り露国側ト妥協スル事ニ取計ハルル方然ルヘキヤニ思料ス將又同代表ニ對スル特權付与ハ依然之ヲ拒否スル方針ヲ取ラルルモノトセハ此点ヲ予メ篤ト組合關係者ニ了解セシメ置カルルノ要アルヤニ存ス

(欄外記入)

日露協会主事関根齊一氏呼出ノ上同人ヲ通シ倉知氏ヘ大意伝達ズミ

四四九 十一月十九日 幣原外務大臣ヨリ

在ソ連邦田中大使宛(電報)

一三 日ソ外交関係ノ開始 四四九

ヲ進メツツアルカ同組合(商品別トセス全国ニ亘ル一ツノ組合トスル趣旨ナリ)ノ設立ハ之ニ依リテ問題全部ヲ解決シ難シトスルモ内地當業者間ニ於ケル不必要ナル競争防止ノ意味ニ於テ相當效果アルヘキハ明白ニシテ從テ當省トシテモ之ヲ援助シ差支ナキモノト認メラルルモ予テ閣下ヨリ右計画者側ニ對シ御注意ノ筋アリタル趣ニテ今般倉知鉄吉氏ヨリ此際一応組合設立ニ關スル貴見ヲ承知シタル上運動ヲ進ムルコトトシタキ旨申出ノ次第アリタルニ付右ニ對スル御意見至急御回電ヲ請フ

輸出組合ノ設立ニ關シ倉知ニ御注意ノ廉ハ同人ヨリ關係者ニ伝達セルカ其後商工省ニ於テハ種々考究ノ末結局組合ノ設立ヲ慫慂セラレ關係者モ亦設立ノ意ナキニアラスト雖本件ハ今後駐露大使ノ特別ノ御同情ト御援助トヲ得サレハ其目的ヲ達スル能ハサル義ナルヲ以テ關係者ハ決定ヲナス前特ニ駐露大使ノ御意見ヲ承知センコトヲ切望スル次第ナリ

四四八 九月二十一日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

對露貿易機關設立案ヲ支持スル場合ハ露国貿易代表ニアル程度ノ特權付与ノ方針ヲ取ルベ

貿易代表問題ニ關スル我方案文ヲコップ大使

ニ手交シタル旨通報ノ件

付記一 十一月十九日幣原外務大臣発在ソ連邦田中大使宛電報第三七四号

駐日ソヴィエト通商代表ニ關シコップ大使

ニ手交セル我方案文

二 十一月十九日通商代表問題ニ關シ大臣トコップ大使トノ会見要領

三 十一月二十五日通商代表問題ニ關シ大臣トコップ大使トノ会見要領

四 十二月二日通商代表問題ニ關シ大臣トコップ大使トノ会見要領

第三七三号

十九日貿易代表問題ニ關シ「コップ」ヲ招致シ別電第三七四号ノ如キ案文ヲ手交シ右ハ国法上尚手續未了ノ点モアルコト故全ク tentative ノモノナリト断リ置ケリ

(付記一)

十一月十九日幣原外務大臣発在ソ連邦田中大使宛電報第三七四号

駐日ソヴィエト通商代表ニ關シコップ大使ニ手交セル我方案文

案文

1. The Government of the U.S.S.R. may establish a

Trade Delegation in Tokyo, whose function shall be—

- (a) to encourage and to facilitate commercial intercourse between Japan and the U.S.S.R.,
- (b) to control exportation from the U.S.S.R. to Japan and importation to the U.S.S.R. from Japan, and
- (c) to conduct commercial transactions on behalf of the U.S.S.R.

2. The Government of the U.S.S.R. shall be at liberty to designate the head of the Trade Delegation and his assistants, respectively, as Commercial Attaché and Assistant Commercial Attaché to the U.S.S.R. Embassy, who, in such supplementary capacity, shall be permitted in Japan to exercise the same official functions and to enjoy the same diplomatic immunities as similar officials of other foreign Embassies at Tokyo: provided that the Commercial Attaché shall be one in number, and

the Assistant Commercial Attaché not more than three.

3. The head of the Trade Delegation so recognized as Commercial Attaché of the U.S.S.R. Embassy shall be authorized to issue licences for export from and for import into the U.S.S.R. thereby retaining in his hands control of the trade of the U.S.S.R. in relation to Japan.

4. It is, however, to be understood that, should he be designated as Commercial Attaché, in addition to his capacity as the head of the Trade Delegation, he shall cease to exercise in person the functions of conducting commercial transactions on behalf of the U.S.S.R., and that these functions shall then be placed under the direction of another member of the Trade Delegation, who, not being attached to the Embassy as Commercial Attaché or Assistant Commercial Attaché, may be specially authorized by his Government for the purpose

named.

5. It is further to be understood that with a view to securing the development of trade between the two countries on a sound and satisfactory basis, the Japanese Government may prescribe channels of trade through which the Trade Delegation will be permitted to conduct commercial transactions.

6. The Trade Delegation, as well as its head and members, except those recognized as Commercial Attaché or Assistant Commercial Attaché to the U.S.S.R. Embassy, shall be subject in Japan to the laws and jurisdiction of the country, and shall in all cases confine their activities within the limit of the specified functions for which the Delegation is to be established.

7. All commercial transactions which may be conducted in Japan by the Trade Delegation, as well as all property of the U.S.S.R. situated in Japan and connected with the business of the Trade

Delegation, shall likewise be subject to the laws and jurisdiction of the country.

8. The Trade Delegation shall maintain its offices outside the promises of the U.S.S.R. Embassy: Provided, however, that the head or members of the Delegation recognized as Commercial Attaché or Assistant Commercial Attaché may exercise their official functions as aforesaid in the chancellery of the Embassy.

(付 記 11)

十一月十九日通商代表問題ニ関シ大臣トロップ大使トノ会見要領

(山口領事起草)

大臣

本日ハ通商代表問題ニ関シ大使ノ御来訪ヲ煩ハシタル次第ナルカ本問題ニ関シテハ貴國ト我國トノ主張互ニ齟齬シ居リ貴國ノ要求ハ通商代表一名同補佐官三名ニ対シ外交官ノ特權ヲ与フルニアルトコロ我國ハ貴國ノ要求セララルカ如キ通商代表トシテ外交官ノ特權ヲ与フルコトハ我國ノ法律上不可能トスルトコロナリ

依テ右両国ノ異レル立場ヲ調和シテ茲ニ一案ヲ作レリ
 本案ハ通商代表一名同補佐官三名都合四名トシ之ニ大使
 館商務官又ハ副商務官ノ名義ヲ与ヘ以テ完全ナル外交官
 ノ特權ヲ許与セントスルモノナリ

茲ニ手交スル英文ヲ以テ認メタル本案ヲ通読セラレンコ
 トヲ請フ然ラハ我方ノ趣旨ヲ充分了解セラルヘシ(トテ
 大臣ヨリ大使ニ我方案ヲ交付セラレタリ)

大使

貴案ハ何レ熟読致スヘキモ只今一寸読了シタルトコロニ
 依リ茲ニ御尋ネ致シタキ点ハ貴案ニハ全文ヲ通シテ通商
 代表カ貿易ヲ調節スルコトト商取引ヲナスコトニ関シ記
 述シアリト認メラルトコロ日本國ノ法律及裁判權ニ服
 スト言フ点ハ如何ニ解スヘキモノナリヤ

大臣

貴國通商代表ハ其ノ地位高キモノナルニ付同代表カ商務
 官ヲ兼任スルトキハ之ニ外交官ノ特權ヲ与ヘ以テ其ノ
 「プレスチツジ」ヲ維持セシメ且貴國ヘノ輸出入ニ對ス
 ル特許狀ヲ發給スルノ職權ヲ認メトスルモノナルモ
 「ソヴィエト」政府ノ為ニ商取引ヲナスヘキモノニ對シ

テ商取引ヲ為シ其ノ責任ハ産業団体之ヲ負フコトナリ
 居ルトコロ貴國ニ於テハ後者ノ場合ニハ何人ヲ責任者ト
 見做サルヘキヤ

大臣

通商代表部ハ産業団体ノ委任ニ依ルトスレハ該団体ノ委
 任狀ヲ以テ商取引ヲ為スコトト思ハルカ其ノ場合ニハ
 産業団体ノ責任トナルヘク要ハ日本ノ当事者ニ於テ何人
 カ其ノ責任者ナルコトヲ了解シ居ラハ差支ナキニ付団体
 ノ委任狀ニテ其ノ責任ヲ明ニスルコトトセハ差支ナシト
 思フ

大使

通商代表部カ日本ニ於テ商取引ノ事務ヲ開始スル場合同
 代表部ハ日本商館ニ通用セラルト同様ノ法律ヲ適用セ
 ラルヘキヤ將又同代表部ニ對シテハ警察側ニ於テ同部カ
 商取引ヲ為スト同時ニ宣伝等ニ従事セサルヤノ疑ヲ以テ
 何等カ特別ノ法律ヲ適用シ遂ニ同部ヲシテ事実上商取引
 ヲ不可能ナラシムルニ至ルカ如キコトナキヤ

大臣

通商代表ニ對シテハ日本商店ニ對スルト同一ノ法律ヲ適

テハ外交官ノ特權ヲフルコト能ハス商取引ニ従事スル
 者ハ我國ノ法律及裁判權ニ服スヘキモノナリ

大使

通商代表部カ商取引ヲ為ス場合外國ノ商館ノ如ク法人ト
 認メラルモノナリヤ

大臣

通商代表部ハ之ヲ法人ト認ムルコト能ハス代表部ノ者カ
 國家ノ為ニ商取引ヲナスコトナルヘシ

大使

商取引ヲ為スニ當リ責任ハ何人カ負担スルコトナルヘ
 キヤ

大臣

商取引ノ署名者カ國家ノ代表者トシテ責任ヲ負フコトト
 ナルヘシ

大使

通商代表部ノ商取引ニハ二種類アリテ其ノ一ハ外國貿易
 部ノ外國ニ於ケル支店タル形ニ於テ商取引ヲ為シ國家其
 ノ責任ヲ負ヒ他ノ一ハ各種産業団体(例ヘハ國營工場、
 市經濟部、消費組合中央連合會等ノ如シ)ノ委任ヲ受ケ

用セラルヘク之ニ何等特殊ノ法律ヲ適用スルコトナル
 カ如キコトナシ尚本案ハ貴案ノ趣旨ニ副ハントシテ作成
 シタルモノナルカ未タ我政府部内ノ承認ヲ得タルモノニ
 アラス依テ貴方ヨリ本案ニ對シ同意ヲ得タラハ內務省側
 ニ話シ其ノ了解ヲ取付クヘク事ニ依ラハ尚樞密院ノ同意
 ヲ要スルコトトナルヤモ知レス依テ本案ハ特ニ tentative
 ナル文字ヲ記入シ私一個ノ試案ナルコトヲ明ニシ置ケリ

大使

私モ貴案ヲ御説明ノ如ク考ヘ居レリ我方ノ案モ亦同様ノ
 性質ノモノナリシナリ

大臣

私ハ貴方ノ同意ヲ得ルトキハ御承知ノ通り樞密院ノ同意
 ヲ得ルコト困難トスルトコロニシテ必ス同意ヲ取付ケ得
 ルヤ否ヤハ茲ニ受ケ合ヒ難キモ充分責任ヲ負シテ之カ同
 意ヲ得ルコトニ極力努力スル決心ナリ

大使

何レ貴案ニ関シ充分審議シタル上本國政府ニ報告致スヘ
 ク後日又本問題ニ立歸ルノ機アルヘシト思考ス

云々

(付記三)

十一月二十五日通商代表問題ニ関シ大臣トコップ大使トノ会
見要領

大使

貴案ニ対シテハ未タ弊国政府ヨリ何等ノ訓令ニ接セサル
カ貴案中二三ノ疑問ノ点アルニ付「インフォルメーショ
ン」トシテ承知シタキ次第ナルカ其ノ第五項ニ通商代表
部力商取引ヲ為スコトヲ許サルヘキ仲介機関ヲ指定スル
コトアルヘシトアルカ右ハ如何ニ解スヘキモノナルヤ

大使

英国ニハ「アルコス」会社ナルモノアリテ露国ハ同会社
ヲ経テ各種ノ注文ヲナシ居ルコトヲ聞ク依テ我國ニモ之
ニ類似ノモノヲ設ケタラハ好都合カト考ヘテ居ル尤モ之
レハ未タ確定シタル案ニハアラス

大使

日本ハ通商代表部ノ商取引ヲ行フヘキ仲介機関ヲ指定シ
代表部ハ仲介機関ヲ経サレハ商取引ヲ行フコト能ハス又
若シ仲介機関出来サル限り商取引ヲ行フコト能ハサルカ
如シ之レハ prescribe ナル文字ノ意義ヨリ斯ノ如ク解セ

認シ難キ所ナリ

大臣

堅実且満足ナル基礎ノ上ニ兩國間ノ通商ノ發展ヲ確保セ
ムカ為ト目的ヲ限定シアリ故ニ露国側ニ於テモ安心セラ
レテ然ルヘシ

「アルコス」会社ノ御説明アリタルトコロ我案ニハ chan-
nels ト複数ニ書キアリ一会社ニ限定シタルニアラス例ヘ
ハ鉄ナラハ甲ノ会社燐寸ナラハ乙ノ会社ト言フ如ク商品
ニ依リ夫々異リタル会社ヲ経テ取引ヲ行フコトヲ得ヘシ
而シテ此等仲介機関ハ或ハ日露ノ合弁トナスモ可ナリ何
レ我方ノ考カ纏リタルトキハ大使トモ協議スルコトナ
ルヘシ若シ夫レ其ノ書キ方ニ付御異議アラハ其ノ点ニ付
考ヘ直シテモ差支ナシ

大使

兩國間ノ通商ノ發展ヲ図ル点ハ至当ノコトト考フルモ日
本政府ニ於テ商取引ノ許否權ヲ握ラルルコトハ我方ノ堪
ヘ難キ所ナリ若シ合弁会社ノ如キモノヲ設立セントスル
カ如キ提議ヲナサルナラハ我政府ハ拒絶スルコトナカ
ルヘキモ貴案ニハ單ニ日本側ノ一方的權利ノミヲ規定シ

ラルト思フ

大臣

斯ノ如キ仲介機関力出来タラハ便利ナラント思フカ実ハ
之レハ未タ熟シタル案ニアラス或ハ遂ニ出来サルヤモ知
レス案ニハ channels ヲ指定スルコトアルヘシトナシ置
ケリ依テ若シ斯ル仲介機関出来サルトキハ何レノ会社商
店ト商取引ヲ行ハルルモ何等差支ナシ露国カ日本ニ注文
ヲナス場合各個ノ商人ヲ相手トスルトキハ往々確實ニ履
行セラレサル為種々ノ面倒ヲ起スコトナキヲ保セサルニ
付仲介機関ヲ經由スルコトトシタラハ便利カト思フ

大使

「アルコス」会社ニ付説明シタシト思フカ同会社ハ貿易
独占權ヲ有セス或ル取引ハ之ヲ経テ行ハルルカ全部ノ取
引ニハアラス英国ニハ露国ノ各種「シンヂケート」代表
部アリテ直接取引ニ従事シ居レリ尚「アルコス」会社ニ
ハ英国資本ハ参加シ居ラス露国資本ノミナリ故ニ同会社
ノ性質ハ大臣ノ御考トハ相違ス

通商代表部力商取引ヲ行フニハ日本政府ハ一方のニ決定
シタル仲介機関ヲ指定セラルルコトトナリ我方ノ到底容

アルニ付若シ通商代表来リテ商取引ヲナサムトスルニ当
リ日本政府ハ甲トハ商談ヲ為スヲ得ヘキモ乙トハ商談ス
ヘカラスト言ハルルコトアルヘキモ之レハ容認シ能ハス

大臣

尤モ文句ハ Japanese Government may prescribe ヲ The
two Governments may arrange ト変ヘテモ宜シト思フ
之レニテモ仲介機関ハ兩國政府ノ了解ヲ要スルハ明ナリ

大使

自分ハ只今ノ大臣ノ御趣旨ナラハ異議ナシ尚貴案中第四
項ニ付商務官ハ通商代表トシテ商取引ヲ為スコト能ハサ
ルコトニ規定シアルカ商取引ニハ各種ノ意義アリト思ハ
ルルトコロ商務官ハ商取引ニ関シ署名ヲ為ス迄予備的談
判ヲ繼續シ得ル義ナルヤ

大臣

取引ノ談判ハ取引ヲ完結スル一階梯ナリ故ニ商務官ハ何
レノ国ニ於テモ之ヲ為スコトヲ得ス露国商務官ハ他国ノ
商務官ト同一ノ職權及特權ヲ有スヘク從テ商取引ニ關ス
ル談判ヲ勝手ニ為シ得ヘシトスルコト不可能ナリ他国ノ
商務官ニ対スルト同一ノ待遇ヲ為ストスルハ当然ノ論結

ナリ

大使

商務官ハ商取引ノ談判ヲ為スノ權ヲ有シ只法律上ノ意義ニ於テ取引ニ關スル書類ノ署名ヲ為スコト及手形ヲ發行スルコト能ハサルタケナリト考フルカ若シ然ラストセハ他國ノ商務官ヨリモ不利ノ地位ニ置カルコトナルヘシ日本商務官ノ如キモ取引上ノ談判ヲ為シ居レルカ如シ現ニ上海ニ於ケル無線電信問題ノ如キ即之レナリ若シ商務官ノ談判不可能トセハ商務官ハ何事ヲモ為スコト出来ス利權ノ如キ問題ニ付テモ談判不可能ナリ又日本商業界ト接觸スルコトモ出来又訳ナリ然ルニ商務官ハ何レノ國ニ於テモ商取引ニ關スル談判ヲ許サレ居レリ故ニ我商務官ハ日本ニ於テ他國ノ商務官ヨリモ不利ナル地位ニ置カルコトナルヘシ露國商務官ハ談判ヲナスモ契約ノ署名トカ手形ノ發行トカヲ為ササルコトトセハ夫レニテ宜シキニアラスヤ

大臣

ソレハ大使ノ誤解ナルヘシ無線電信ニ關シテハ三井会社ト支那海軍部トノ談判ニシテ我公使館ハ之ヲ保護スル手

之ヲ如何程ノ値段ニテ売ルトカ買フトカノ談判ヲ為スコト能ハス

大使

大臣ハ特別ノ売買ニ付テ言ハルルカ商務官ハ單簡ナル商取引ハ之ヲ為サス一般の原則上ノ性質ヲ有スル問題ニ付談判ヲ為スモノニシテ石炭トカ林業ノ利權ニ付テハ其値段ニ付テモ或ハ談判スルコトアルヘシ商取引ニ關スル契約ノ署名ト談判トハ別物ナルカ談判ハ商務官ニ於テ自由ニ之ヲ行フモ署名ハ之ヲ為サス其ノ代理者ニシテ外交官ノ列ニアラサル者ニ署名スレハ宜シキカト考ヘラルルトコロ大臣ノ御意見ニ依レハ商務官ト其ノ代理者トノ職務ノ限界ヲ定ムルコト困難ナリ
通商代表ハ例ヘハ独逸ニ於テ穀物等ノ大取引ヲ為ス際自ラ交渉ノ衝ニ當リ居ルカスル場合日本ニ於テハ商務官ハ署名スルコトヲ得サルモ單ニ準備の行為ヲ為スコトヲ得ヘシト了解シテ可ナルヤ

大臣

「コンダクト」ノ意ハ署名ノミナラス交渉ヲモ含ム積リナリ

段ヲ執ルモ我商務官ハ無電ニ何等ノ關係ナシ何レノ國ノ商務官モ自ラ貿易ニ關スル談判ヲ為スモノナシ從テ貴國商務官カ他國ノ商務官ヨリモ不利ナル地位ニ置カルコトナシ貴國商務官ハ他國ノ夫レト同一ノ地位ニ置カルヘシ

大使

無電ノ例ハ當ヲ得サリシナラン然シ東京又ハ北京ニハ或ハ其ノ例ナシトスルモ他國ニ於テハ商務官カ或ル場合ニハ政府ノ命ニ依リ財務、商業ニ關シ談判ヲ行フノ例往々アリト思ハル

商務官カ商人ト商取引ニ關スル談判ヲ為スコト能ハストセハ狭キ意味ノ売買ニ付テノミナラス利權合弁銀行等ニ付テモ亦談判ヲ為ス能ハサルコトナルヘク極端ニ言ハハ商取引ニ關スル話ヲモ為スコト能ハサルヘク若シ之ヲ為サハ日本法律ヲ侵犯スルコトトナルヘケレハ斯ル案ニハ同意スルコト能ハス

大臣

大使ハ商人ト接觸セラルル機會充分アルカコレハ商務官ニテモ何等差支ナシ但シ特定ノ商取引ニ付テハ商務官ハ

大使

然ラハ商務官ニハ商取引ニ關スル交渉ハ許サレサルカ

大臣

然リ但シ商務官ハ内部ニアリテ取引ノ局ニ當ル者ヲ指図スルコトハ差支ナシ唯外部ニ現ハレテ自ラ交渉スルコトハ出来サルナリ

大使

大臣ノ御意見ヲ充分ニ吞ミ込ミ得ス商取引ニハ法律上署名ヲ要スルカ交渉ハ署名ヲ拘束スルモノニアラスト考フ商務官ハ外交上ノ特權ヲ有スルカ故ニ其ノ代理者ヲ經テ交渉ヲ為ササルヘカラサルヤ
私ノ考ニテハ商取引ノ談判ハ商務官之ヲ為スモ差支ナキコトトシ署名ハ其ノ代理者之ヲ為スコトトスレハ差支ナシト思フ

大臣

遺憾ナカラ日本ニ於ケル他國ノ商務官ト同等以上ノ新ナル職權ヲ要求セラルルナラハ談ハ根本ヨリ變ハリ来ルコトトナルニ付大使トノ談判ヲ進ムルコト不可能トナルヘシ

大使

貴案中第七項ニ関シテハ我案ニモ述ヘ置キタルトコロアルカ同項ハ如何ニ解スヘキヤ又其ノ内容ハ如何ナルヤ御説明ヲ請フ

大臣

通商代表部ノ財産ハ日本ノ法律及裁判權ニ服ストアルカラ必要ノ場合ニハ我裁判所ハ代表部ノ財産ヲ差押フルコトアルヘシ自分ハ日本裁判所ニ対シ代表部ノ財産ヲ差押フヘカラスト命令スルコト能ハス

大使

通商代表部ノ財産ニアラスシテ「ソヴィエト」国家ノ財産ハ差押ヘラルヘキヤ

大臣

通商代表部ノ事務ニ関スル財産ハ差押ヘラルコトアルヘシ

大使

通商代表部ノ商取引ニ関スル裁判ニ際シ露国商船来港シタラハ同船ハ差押ヘラルコトアルヘキヤ

大臣

ノ「レダクション」ヲ改ムレハ差支ナキカト思フ

大臣

然ラハ意見ノ相違ハ第四項ノ点ノミト考ヘラルルカ如何

大使

自分ハ決定的御答ヲ為スコト能ハサルヲ遺憾トス今日ハ唯自分ノ純然タル「インフォルメーション」トシテ御尋シタルニ過キス故ニ「ソヴィエト」政府ハ自分ノ承認シ得ルト思フ点ニ付テモ或ハ反対ナルヤモ知レス

大臣

私モ其ノ意味ニテ了解シ居レリ但シ談ノ纏マラサルハ何レノ点ナルヘキヤ参考ノ為問ヒタルモノナリ

意見ノ相違ハ今日ノ会談中ニハ先ツ第二ノ点ナリト思フ

大使

第二ノ点ハ非常ナル意見ノ相違ト思フ商取引ヲ行フト言フコトハ単ニ法律上ノ徴候ニ依リ決定セラルヘキモノニシテ談判ノ如キハ商取引ト見ルコト能ハスト思フ

大臣

談判ハ法律上ノ結果ヲ来スモノナリ故ニ或ル商品ニ付瑕瑾ナシトシテ商談ヲ為シタルニ後ニ至リ買手カ瑕瑾ヲ発

露国商船ハ通商代表部ノ保管スル財産ニアラサル限り之ヲ差押フルコトナカルヘシト思フ

大使

此問題ニ関シ此上御尋スル点ナキモ我政府ニ於テ貴案ノ通過スヘキ望ハ少シト思考ス

大臣

我案ハ出来ルタケ露国側ノ希望ニ副ハムコトニ努メタルモノナルカ若シ日本カ此以上ノ義務ヲ負フコトナラハ枢密院其ノ他ノ機関ノ承認ヲ得ルコト不可能ナルヘシ尚大使ノ質問三点ノ内第一（第五項）ハ大使モ談カ纏マリサウト言ハレ第二（第四項）ハ妥協最困難ナリト了解セラレ第三（第七項）ハ両者ノ意見全ク一致セストハ了解セラレスト思考セラルルカ如何

大使

第四項ノ妥協最モ困難ナリト思フカ第七項ニ付テハ通商代表部ニ対シ裁判所カ担保ノ為代表部ノ事務ニ直接関係スル財産ヲ差押フルト言フニアラハ「ソヴィエト」政府ハ或ハ承諾スヘキモ日本ノ何レカノ露国ニ好意ヲ有セサル官憲カ何等カノ曲解ヲナスナキヤヲ虞ルルニ付第七項

見シタルトキ売手ハ其ノ責任ヲ負ハサルヘカラス故ニ法律上ノ責任ハ署名ノミニアラス談判ニモ関係アリ我方ハ之ニ重キヲ置キ居レリ

大使

大臣ノ挙ケラレタル例ハ小ナル売買ニ関スルモノナルカ通商代表ハ小商売ヲナサス一般原則的性質ヲ有スル商談ヲ為スモノニシテ争議ノ場合ニハ詳細ニ記載セラレタル書面ニ基キ裁決セラルヘシ口頭ノ談判ノ如キハ裁判上ノ証拠トナラスト思フ

大臣

商取引ハ其ノ大小ヲ問ハス同一ニシテ書面ヲ以テセシ口頭ヲ以テシタル場合ニモ責任ヲ生スルモノナリ故ニ小麦百万石ノ取引ニ関シ当事者カ商務官ニ問ヒ合セタリトセハ当事者ハ商務官ノ言ヲ信シテ取引スヘシ然シ談判中ニ述ヘタルコトカ實際ト異ルニ於テハ其ノ取引ハ無効トナルヘシ外部ニ向ヒ一言ニテモ意思ヲ表示スレハ其ノ表示ハ法律上ノ効力アリ若シ之レカ効力ナシトセハ安心シテ取引スルコト能ハス争議ノ場合ニ商務官カ外交上ノ特權ニ隠レテ言ハストセハ当事者ハ非常ナル損害ヲ被ルコト

トナルヘシ

大使

通商代表ハ一切ノ取引ヲナスモノニアラス一般原則の性質ノモノニ止マリ小ナル売買ハ部下ノ官吏ヲシテ之ヲ行ハシム

通商代表ハ利権、巨額ノ用達等ニ付テ談判ヲ為シ此種ノ談判ニ關スル爭議ニ付裁判所ハ文書ニ依リテ決定シ口頭尋問ヲ為スコトナシ日本裁判所ニ於テモ斯ル問題ニ關シテハ文書カ重要ナル役割ヲ為シ口頭ハ然ラスト思フ大臣ノ拳ケラレタル例ハ小取引ニ關スルカモ知レサルカ大取引ニハ關係セサルヘシ

大臣

自分ハ商務官カ大取引ヲ為スコト考ヘ居リ又文書ヲ以テスル契約カ重キヲ為スモノナルハ勿論ナルカ文書カ唯一ノ証拠ニハアラス口頭ノ意思表示ヲ為シタル際側ラニ証人アリシトセハ爭議ノ場合証人カ証言ヲ為サハ其ノ証言ハ仮令文書ナクトモ均シク効力ヲ有スルナリ口頭ノ意思表示モ裁判上ノ効力アルニ付此点ハ誤解ナキヲ望ム

大使

取引ニ付争ヲ生シタル場合契約ノ談判ヲ為シタル者カ裁判所ニ呼ヒ出サルル例ハ稀ナラス

商務官ハ任意ニ出頭スルコトハ出来ルモ裁判所ハ出頭ヲ命スルコト能ハス又裁判所ハ商務官ノ陳述ニ際シ宣誓セシムルコト能ハス故ニ其ノ陳述ハ証言トナラス証人カ虚偽ノ証言ヲナサハ偽証罪ニ問ハルルモ商務官ノ場合ハ然ラス

大使

契約署名者カ裁判所ニ出頭スレハ可ナルニアラスヤ

大臣

署名者ハ談判ヲ為シタルモノニアラサルニ付談判ヲ為シタル者ノ言ニアラサレハ証言トナラス

大使

談判者カ死亡シタリトセハ裁判所ハ証言ヲ得ルコト能ハス商事裁判所ニ於テハ契約ノ意義ヲ明ニスルカ為談判当事者ヲ呼出シタル例ナシ

大臣

談判当事者死亡ノトキハ証言ヲ得難キハ勿論ナルモ生存シ居ラハ裁判所ハ職權ヲ以テ呼出スノ外ナシ

談カ抽象的ナリシカ大取引ニハ嚴密ニ形式ヲ備ヘタル文書ヲ以テシ裁判所ハ専ラ文書ニヨリテ決定スヘシ自分ノ知ル限り商事仲裁裁判所ニ於テハ文書ヲ以テスル契約ニ基キ決定ヲ下シ口頭談判ハ裁判上何等ノ効力ヲ有セス

大臣

大使トハ法律觀念ヲ異ニス契約ノ或ル一条ノ意義不明ナルトキ裁判所ハ当事者カ如何ナル意味ニテ契約ヲ締結シタルヤヲ檢スルニハ談判ノ際如何ナルコトヲ言ヒタルヤヲ調フルコトナルヘシ然ルニ裁判所ハ商務官カ外交上ノ特權ヲ有スル故ヲ以テ之ヲ取調フルコト能ハス

要スルニ日本法律ハ文書ハ有力ナル証拠ナルモ唯一ノ証拠ニアラス口頭モ亦証拠トナルモノナリトノ主義ヲ採リ居レリ故ニ契約書ノ意義不明ナルトキ裁判所ハ談判ノ際ニ於ケル当事者ヲ呼ヒ出シテ取調フルコトヲ要ス

大使

大使館ハ商務官カ裁判所ニ出頭スルコトニハ反対スルモノニアラサルモ斯ル例ハ稀ナリ

大臣

大使

御説ハ御尤ナルカ談判当事者ヲ証人トシテ呼出ス例ハ稀ナリ

商務官カ商取引ノ談判ヲ為スモ其ノ契約ニハ其ノ代理者署名シ契約ノ結果ニ付被告トシテ責任ヲ負フコトトシタシコレハ「ソヴィエト」政府ニトリ一ノ讓歩トナルヘキモ大臣ハ更ニ此上ノ讓歩ヲ要求セラルルコトトナリ国内法モアルコト故之レ以上具体的ニ交渉ヲ進ムルコト能ハス

大臣

自国法ノミヲ主張スルトキハ妥協ヲ見ルコト到底不可能ナリ本案ノ如キハ妥協案ナリ大使ノ御意見ハ商務官ヲシテ商取引ノ談判ヲ為スコトヲ自由ナラシムヘシ然シ商務官ハ談判ノ「プロセス」ニ付テハ何等ノ責任ヲ負ハスト言フニ歸スヘシ

然ルニ裁判所ハ爭議ノ場合日本当事者ニ対シテ意思表示ヲ為シタル者ヲ取調フヘシ

大使

署名ヲ為シタル者カ裁判所ノ取調ヲ受クヘシ

大臣

裁判所ハ商談ヲ為シタルモノヲモ呼ヒ出ササルヘカラス
實際問題トシテハ露国ハ談判スル人モ署名スル人モ立派
ナル責任アル人ヲ置カハ宜シカルヘシ

大使

商取引ノ談判ハ商務官ニ於テシ外交官名簿ニ載セラレサ
ル者カ契約ノ署名ヲ為セハ充分ナリト思フ

大臣

大使ハ今日ハ貴国政府ノ訓令ニ依リテ会谈セラレタルニ
アラスト了解セルカ貴国政府ハ我案ヲ容認セラレムコト
ヲ希望ス

大使

私モ希望スルトコロナリ然シ我国政府ハ自分ヨリモ妥協
的ニアラサルヲ恐ル
云々

(付 記 四)

十二月二日通商代表問題ニ関シ大臣トコップ大使トノ会見要領

大使

本日貴案ニ対シ莫斯科政府ヨリ回答ニ接シタルトコロ其

大使

第四項ニ付キ莫斯科ヨリハ詳細ナル説明ヲ得居ラサルニ
付確答致シ難シ

大臣

第四項ハ重要ナル箇条ノ一ナルニ付其ノ解決ヲナササル
ニ先チ「ヤンソン」氏来ラハ徒ニ問題ヲ複雑ナラシムル
ニ付同項ニ付キ莫斯科政府ノ意見ヲ承知シタク之ヲ承知
シタル上ニテ更ニ考ヘ直シテモ宜シ

大使

第四項ニ関シ莫斯科ヨリノ回答ハ簡單ニシテ解釈ヲ付シ
居ラス只第四項ノ容認シ難キコトヲ通知シ来レルニ過キ
ス從テ莫斯科政府ノ意見ハ知り難シ
サレト私自身カ單ナル「インフォメーション」トシテ承
知シタクハ莫斯科政府ハ自分程妥協性ヲ有セサルニ付自
分ノ提案ヲ承諾スルヤ否ヤハ知ラサルモ第四項ニ付テハ
自分一個ノ考トシテハ一、二ノ文句ヲ變更スレハ妥協点
ヲ見出し得ヘキカト考ヘラルルニ付右文句ノ變更ヲ提議
シタシト考フルカ貴見ハ如何

大臣

ノ内容ハ貴案第四、五項ヲ除キ大体ニ於テ貴案ヲ容認シ
来レリ

我政府ハ第四、五項ニ関シテハ容認不可能ナルモ右ハ後
日ノ解決ニ譲ルコトヲ提議シ之ト同時ニ差シ向キ「ヤン
ソン」氏ヲ通商代表トシテ日本ニ派遣スルコトトシ同氏
到着ノ上ハ直ニ實際上ノ事務ニ従事セシムルコトトセム
トス

尚第五項ニ関シテハ私自身ヨリ付言シタクハ莫斯科ヨリ
ノ回答ハ大臣ノ御意見ヲ莫斯科ニ報告セサル前ニ受取り
タルモノナルニ付右報告カ莫斯科ニ達セハ双方ノ意見ノ
相違モ大ニ緩和セラルルコトト信スル点ナリ

大臣

然ラハ莫斯科政府ノ重ナル反対ノ点ハ第四項ニ関スルノ
ミナルヤ

大使

然リ

大臣

第四項ニ付キ莫斯科政府ノ不同意ナル点ハ先般大使ノ御
話アリタル理由ニ因ルモノナルヤ

我方トシテハ貴方ヨリノ具体的基礎アラハ之ニ付キ司法

大臣ト相談シテ其ノ結果貴方ニ回答スル考ナリシカ具体
的基礎ヲ示サレサルニ於テハ貴意ニ応シ難シ

大使

「ヤンソン」氏カ各国ニ於テ一般ニ認メラレ居ル商務官
トシテ渡日ノ場合ニハ差支ナキ義ナルヤ

大臣

「ヤンソン」氏一個人トシテ渡来スルコトニ付テハ素ヨ
リ議論ナシ併シ商務官トシテナラハ商取引ニ関係セサル
コトヲ条件トシテニアラサレハ不可ナリ

尤モ第四項モ conducting ナル文字ヲ concluding ナル文
字ニ變更スレハ大使ノ目的ニモ副フコトナルト考ヘラ
ルルカ之ニ付テハ我方トシテハ司法大臣ニ相談ヲ要スル
次第ナルカ之ニ対シ貴官ニ於テ御意見ノ相違モナキニ於
テハ先ツ以テ之ヲ解決セラレタル後來ラルルヲ可ナリト
思考スルカ之ハ数日ノ内ニ決定セラルルコト出来サルヤ

第五項ハ Japanese Government may prescribe two
Governments may arrange トスル我方ノ提議ニ対シ莫
斯科政府力之ニ同意シ来ルナラハ司法大臣ト相談ノ上回

答スルコトトシタシ

「ヤンソン」氏ノ渡日ハ暫ク延ハサルヲ可トス

大使

大臣ノ御意見ヲ正確ニ了解シタリト思考スルカ右ハ日本ハ「ヤンソン」氏カ本問題ノ解決スル迄ハ通商代表トシテ渡来スルコトヲ望マス併シ一般ニ各国ニ認めラレ居ル商務官トシテナラハ可ナリト言フ御趣旨ナルヤ

大臣

然リ commercial attaché トシテナラハ異議ナシ

大使

貴案第五項ニ関シテハ意見ノ相違ヲ排除スルコトヲ得ルト考ヘラルルカ第四項ニ付テハ自分カ英語ヲ充分ニ了解セサル為 conducting ト concluding トノ意義ノ相違点ヲ明確ニ了解シ兼ヌルカ此点ニ付テハ莫斯科ニ請訓ノ上回訓ニ接シタル節更ニ交渉ヲ重ヌルコトトシタシ

大臣

私ノ見ルトコロニ依レハ若シ大使ノ意見ト莫斯科ノ意見トカ同一ナルニ於テハ conducting ヲ concluding ニ変ヘタラハ大使ノ目的ヲ達シ得ルト思フ本問題ハ裁判所ニ大

関係ヲ有スルモノニシテ司法側ノ承諾アルニアラサレハ確答シ難キモ莫斯科ノ意向判明シタラハ御知ラセアリタシ然ラハ我方ハ司法大臣ト相談シテ決定スヘシ

大使

大臣ノ御意見ニ同意ス本日ハ之ニテ会見ヲ了リタシ

大臣

莫斯科ヨリ回答アラハ其ノ上御相談ニ応スヘシ

大臣

莫斯科ニ於ケル利権ノ交渉ニ付何カ莫斯科ヨリ通知ニ接セラレシヤ

大使

本日多量ノ郵便物ヲ接受シタルモ遲着ノ為未タ開封セサリシカ御尋ノ問題ニ関スル電信ニハ接シ居ラスサレト国際通信ノ報道ハ多少信ヲ措クニ足ルト思フ何トナレハ国際通信ハ「ソヴィエト」連邦電報通信社ト通信ニ関スル契約ヲ為シ居リテ確實ナル情報ヲ接受シ得レハナリ

大臣

我方ニハ通信アリテ石油ノ方ハ三十日交渉ヲ了シタルカ書類ノ整理等ノ為手間取り調印ハ二、三日遅ルヘキモ

調印ノ日ヲ三十日トスルカ調印ノ当日トスルカ不明ナリ石炭ノ方ハ数日後ニアラサレハ交渉完了セサル旨通知アリタリ
右通信カ貴方ニ有セラルル通信ト同様ナルヤ否ヤヲ確メムカ為メ御尋ネシタル次第ナリ

大使

大体ニ於テ通信ハ合致シテ居ルト思フ

大臣

該契約成立スレハ自分モ安心スルカ兩國親善ノ増進ノ為結構ノコトト存ス

大使

御同感ナリ

四五〇 十一月二十五日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

ヤンソンヲ普通ノ商務官トシテ赴任セシムル

ハ差支ナカルベキ旨意見申進ノ件

第五〇九号

貴電第三七三号ニ関シ

二十五日「アラロフ」ニ面会ノ節日本ノ提議ニ就テハ二点

一三 日ソ外交関係ノ開始 四五〇 四五一

（貴電第三七四号第四及第五項）ニ付テ異議アルモ通商代表ノ官名ヲ有スル「ヤンソン」ヲ商務参事官トシテ東京在勤ヲ命シ「コップ」ヲ通シ本件商議ヲ継続セシムル様提議スルツモリナリト語リタルニ付露国々内法ノ官名ハ兎ニ角普通ノ商務官トシテ東京大使館ニ在勤セシムルハ差支ヘナカルヘク只商取引ヲ行フコト及ヒ之ニ伴ヒ特權ヲ要求サルルコトカ問題ナリト答ヘ置キタリ「ヤンソン」赴任ノ上ハ露国ノ購買力ニ関シ誇大ノ吹聴ヲナシ実業界ヲ誘惑スルカ如キコトアランモ通商代表問題ハ結局何トカ解決ヲ要シコレニハ「ヤンソン」ト交渉スル事カ実効的ナリト思考スルニ付同人ノ赴任ハ承認サルル様致シ度ク同人旅券査証ノ關係モアルニ付何分ノ回電アリタシ

四五一 十一月三十日 幣原外務大臣ヨリ
在ソ連邦田中大使宛（電報）

貿易代表問題ニ関スル商議完了マデヤンソン

ノ出発ヲ見合サシムルヨウ訓令ノ件

第三八九号

貴電第五〇九号ニ関シ

貿易代表問題ニ付目下折角商議中ナル処其完了前「ヤンソン

ン」赴任セハ却テ事態紛糾ノ虞モアルニ依リ右商議完了迄
同人ノ出發ヲ見合サシムルヤウ致シ度シ

四五二 十二月三日 在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ヤンソンノ渡日ヲ阻止スルヨリモ寧ロコレヲ
迎ヘ我方ノ主張ヲ諒解セシメ妥結スル方然
ルベキ旨進言ノ件

第五三五号

貴電第三八九号ニ関シ

当政府ニ対シテハ本件ニ直接関係アリ且ツ事情ニ通スル
「ヤンソン」ヲ渡日セシメ「コップ」ヲ助ケテ本件ノ解決
ヲ期セントスル意向ヲ有スルコト往電第五〇九号ノ通ニシ
テ貴電第三七四号第五項ノ如キニ対シテモ「ヤ」ノ考究ニ
重ヲ置クモノト推セラルルノミナラス同人ハ貿易代表ノ官
名ヲ有スルモ商務参事官ノ資格ヲ以テ渡日シ普通ノ商務官
ト同様ノ職務ヲ行ヒ且同様ノ待遇ヲ求ムルニ過キサルト共
ニ我方トシテモ本件ノ解決ハ經濟的接近上望マシキニ鑑ミ
其解決ノ為渡日セントスルモノヲ阻止スルヨリモ寧ロ之ヲ
迎ヘ同人ニ対シテモ篤ト我方ノ主張ヲ諒得セシメ妥結ヲ計

四五四 十二月五日(着)

在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ヤンソンノ赴任ハ大臣トコップ大使トノ合意
ノ結果ナル旨ノソ連側ノ主張報告ノ件

第五三九号

貴電第三八九号ニ関シ

「ヤンソン」渡日旅券ノ査証ハ差当リ不可能ノ趣山崎参事
官ヲシテ「メリニコフ」ニ申入レシメタル処「メ」ハ「ヤ
ンソン」カ商務参事官並通商代表トシテ在本邦「ソ」国大
使館付トナルコトハ幣原大臣「コップ」大使合意ノ結果ニ
シテ右ハ「コップ」ヨリノ確報アリ依テ「ヤンソン」赴任
ニ決シタル次第ニシテ今更旅券査証上困難アルヘシトハ予
期セサリシ処ナリト主張シタルヲ以テ右大臣ト「コップ」
トノ合意云々ノ点ハ何等カ誤解アルニアラサルカ其真相ヲ
確ムル要アリ且本省ヨリ改メテ訓令ナキ限り現状ニ於テハ
査証ヲ与フルコトヲ得ス就テハ貴方ニ於テハ「コップ」大
使ニ電訓シ今一応確メラレタシト応酬シ置キタル趣ナルカ
若シ「ソ」国側ノ言フ通りトスレハ貴電第三八九号ト齟齬
スル処アリ結局「ソ」国ノ主張ハ「コップ」大使ヨリノ誤

一三 日ソ外交関係ノ開始 四五四 四五五

ル方可然キヤニ存ス就テハ今一応御再考ヲ煩ハシ度貴電第
三七四号ノ五項ハ如何ナル機関創設ノ御趣旨ナルヤ大要御
回電アリタシ

四五三 十二月四日 幣原外務大臣ヨリ
在ソ連邦田中大使宛(電報)

ヤンソンノ貿易代表トシテノ職務執行ヲ認メ
ズ商取引ヲ為スヲ得サルコトニツキ渡日前ニ
政府ノ明白ナル諒解ヲ取付クルヨウ訓令ノ件

第四〇二号

貴電第五三五号ニ関シ

「ヤンソン」カ商務参事官トシテ地位相当ノ待遇ヲ求ムル
ニ過キサルト貴電ノ如シトセハ当方ニ於テハ別ニ同人ノ
渡日ニ異議ヲ挾ムノ要ナキモ同人カ一方貿易代表タルノ資
格ヲ有スル以上予メ我方トシテ目下進行中ノ商議完了前全
然貿易代表トシテノ職務執行ヲ認メス殊ニ商取引ヲ為スヲ
得サルコトニ付貴任国政府ノ明白ナル諒解ヲ取付ケ置クコ
トト致度ク尚此点ニツキテハ「コップ」ニ対シテモ二日会
談ノ際篤ト申述ヘ置ケリ
右貴電末段ニ付テハ追電ノ答

報ニ基クカ然ラサレハ貴電第三七四号案文第二項商務参事
官並通商代表設置ノ点ハ彼我異存ナキ確定事項トシテノ主
張ト認メラルル処右ハ貴電第三七三号ノ趣意ニ反スルモノ
ト思考ス要スルニ「ソ」国側ニ誤解アルコトハ明カナルニ
依リ「コップ」ヲシテ本国政府ノ誤リヲ解カシムルニアラ
サレハ事態面白カラスト思考ス何分ノ義御回電アリ度シ

四五五 十二月十九日 幣原外務大臣ヨリ
在ソ連邦田中大使宛(電報)

仲介機関及ビヤンソンノ赴任ニ関スルコップ
大使トノ会谈内容通報ノ件

第四二四号

往電第三七三号ニ関シ

其後「コップ」大使ハ十一月二十五日本大臣ヲ来訪貿易代
表ノ問題ニ関スル我方対案ニ対シ本国政府ノ訓令ヲ受ケタ
ルニハ非ルモ単ニ「インフォメイション」トシテ承知シ
度シトテ往電第三七四号ノ我対案ニ依レハ仲介機関設置セ
ラレサル限り代表部ハ商取引ヲ行フコト能ハス又代表部カ
商取引ヲ行フニ付日本政府カ一方的ニ仲介機関ヲ指定スル
コト並商務官ハ商取引ニ関スル談判スラ為スコト不可能ト

ナル点ハ露国側ノ容認シ難キ所ナルカ如何ト質問シタルヲ以テ本大臣ハ右ハ大使ノ杞憂ニ属シ仲介機関不成立ノ場合ニハ何レノ会社商店ト取引ヲ行フモ差支ナカルヘク又商務官ハ外部ニ現ハルル交渉ヲ為スコト能ハサルモ内部ニ於テ商取引ノ当事者ヲ指図スルコト何等差支ナキ旨答ヘ置ケリ因ニ我方トシテハ右仲介機関トシテハ輸出組合様ノモノヲ設立シ度キ心組ナリ越テ十二月二日大使ハ更ニ来訪シ本国政府モ日本対案第四及第五項ヲ除キテハ大体承諾スヘキ旨申来リタルニ付右二項ハ後日ノ議ニ譲リ不取敢「ヤンソン」ヲ貿易代表トシテ赴任セシメ度ク尚第五項ニ関シテハ本国政府ハ大使程妥協的ニアラサルモ大使一個ノ考トシテハ一二文句ヲ變更セハ妥結ヲ見得ヘキ様思考スル旨語リタルヲ以テ本大臣ハ「ヤンソン」ノ赴任ヲ見合スヘキコト尤商務官トシテナラハ差支ナキコト勿論ナルコト並第四項ニ関スル本国ノ意向判明セハ我方ニ於テ其ノ上考慮スヘキ旨答ヘ置ケリ

四五六 十二月二十四日 在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

ヤンソン商務参事官ノ日ソ貿易ニ関スル談話

本商品ハ露国人向トシテハ品質上ニ欠クル処アルヲ以テ日本商品ノ輸入ニハ多少ノ困難アリ今後両国ノ貿易ノ發展上ニハ右ノ障害ヲ實際ノ商取引ニ於テ除去セサルヘカラサルナリ而シテ日本ヘノ輸出ハ既ニ現在ニ於テ多量ノ木材、魚類、穀物等ヲ輸出シ尚将来西比利ヨリノ穀類ノ輸出ハ益々有望ナリ
日本ハ米国及支那ヨリ毎年莫大ナル生活必需品、食料品ヲ輸入シ居ルモ今後ハ西比利モ亦日本ヘ食料品ヲ供給スル新シキ地点トナルヘク而シテ右農産物ノ輸出ハ単ニ商業上ニノミ利益ヲ齎スノミナラス輸出ノ発達ニ伴フ貨物ノ増加ニヨリ極東ノ諸鉄道ハ大ナル利益ヲ得ルニ至ルヘキナリ

之ヲ要スルニ両国ノ貿易状態ハ極東及西比利ヨリ日本ニ生活必需品及原料ヲ輸出シ日本ヨリハ紙類、化学工業品、医療機械、薬品輸入ヲ見ルヘク尚欧露ト日本トノ貿易関係ハ船賃ノ低減欧露市場開拓ニ対スル日本識者ノ覚醒欧米諸国ヨリモ有利ナル条件提出等ニヨリ円満ナル解決ヲ告クルニ至ルヘシ

大体ニ於テ日露両国ハ經濟上充分好良ナル連結アルカ故

報告ノ件

公第五五三号

大正十四年十二月二十四日

在哈爾濱

總領事 天羽 英二

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

「ヤンソン」商務参事官ノ日露貿易談ニ関スル件
莫斯科ヨリ赴任ノ途次二十一日当地ニ立寄リタル「ヤンソン」商務参事官ハ二十三日午後十時出發南下シタルカ滯哈中「タッス」通信員ヲ通シテ日本及「サヴェート」両国間ノ貿易将来ニ関シ大要左ノ如キ会見談ヲ發表セリ
「サヴェート」連邦国ハ日本産業ノ発達ニ対シ充分ナル信用ヲ与フルカ故ニ日露貿易関係ハ「サヴェート」連邦ト欧州各国トノ関係ト同様ナル形式ヲ採ルニ到ルヘク「サヴェート」連邦ハ日本ニ対シ諸種ノ原料、生活必需品ヲ供給シ連邦自ラハ日本製品ノ市場トナルヘシサレト日本ヨリ欧露ヘノ商品輸送ハ距離ノ関係上困難ナル事情アルノミナラス「サヴェート」連邦カ機械、企業資本ヲ必要トシ居ルニ反シ日本ハ製品ノ輸出ニ重キヲ置キ且日

ニ政治上ノ故障除去セラルルニ於テハ日本並「サヴェート」連邦特ニ極東ノ國民經濟ハ彼我共ニ有無ヲ相通シテ商業並一般經濟上ノ関係ハ順調ナル発達ヲ遂クルモノナリト信スルモノナリ云々

尚一昨二十二日日本官招宴ノ席上本官ノ挨拶ニ対シ「ヤンソン」ハ將ニ暮レントスル千九百二十五年ハ日露両国ノ国交関係ニ取りテハ轉換期ニシテ国交回復セラレ利権ノ協定サヘモ既ニ調印サレタルカ既ニ過去ニ於ケル事実ハ之ヲ顧ミサルヘク只将来ニ向ツテ進ムヘシトテ日露両国ノ貿易関係ニ関シ大体前記ノ趣旨ヲ述ヘ日露両国ノ共同協力ニヨリテ經濟的親交ヲ助長シ得ヘシト結ヘルカ本日ノ露字新聞ハ之カ記事ヲ掲ケテ論評ヲ試ミタルモノアリ其内勞農機關紙「エホ」ノ論說御参考迄別報スヘシ

右何等御参考迄ニ

本信写送付先 在露大使 在支那公使 在奉天總領事

四五七 十二月三十日

在本邦ソ連邦大使ヨリ
幣原外務大臣宛

ヤンソンノ来京及ビソノ大使館内ノ席次ニツ
キ通報ノ件

304/1048. Tokio, le 30 Décembre, 1925.

Monsieur le Ministre,

J'ai l'honneur d'informer Votre Excellence que M. Yanson, Conseiller Commercial de l'Ambassade récemment arrivé, prend seconde place dans la hiérarchie officielle de l'Ambassade, précédant tous les autres membres de l'Ambassade, entre lesquels l'ordre de précedence reste le même qu'auparavant. Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances de ma très haute considération.

V. Kopp

Son Excellence,

M. le Baron Shidehara,

Ministre Impérial des Affaires Etrangères.

En ville.

四五八 十二月三十一日(着)

在オーストリア国赤塚公使
幣原外務大臣宛(電報)

ヤンソンノ使命ニ関スル情報報告ノ件

付記

大正十五年一月三日着在オーストリア国赤塚公使
使ヨリ幣原外務大臣宛電報第五二号

ル「ヤンソン」ヨリ日本ノ内情ニ関スル詳細ナル報告ノ到着ヲ待チ決定スルナラン「ヤンソン」ハ表面ハ在東京大使館ノ商務顧問ナルモ裏面ニ於テハ中央執行委員会ノ特別全権トシテ日本ニ派遣セラレタルモノナリ

(付記)

大正十五年一月三日着在オーストリア国赤塚公使幣原外務大臣宛電報第五二号

ヤンソンノ任務ニ関スル諜報報告ノ件

第五二号

(一)日本区即チ日本、朝鮮、関東州、膠州、台湾、南樺太及「カロリン」「マリアナ」及「マーシャル」群島ニ於ケル共產運動ノ総指揮並ニ極東及ヒ米国ニ於ケル日本共產党細胞ノ統轄

(二)一般任務

(a)階級闘争精神ヲ鼓吹シ日本無産者革命ヲ誘発スルコト
小細胞罷業及ヒ怠業団共產的職業組合及ヒ常設労働者示威運動機関ヲ組織シ鞏固ナル労働団体ヲ組織スルコト

(b)巨額ノ資金ヲ補給スルヲ以テ保守、急進両派ノ鮮人秘密結社ト連絡シ朝鮮ニ於テ民族独立ノ革命ヲ企ツル事之カ為メ朝鮮国境付近及ヒ朝鮮内地ニ武器彈藥庫ヲ設置シ

一三 日ソ外交関係ノ開始 四五八

ヤンソンノ任務ニ関スル諜報報告ノ件

第五一号

(諜報)

十二月十三日付外務国民委員東方部ノ通報ニ曰ク

馮玉祥派ハ引続キ友好關係ヲ持續スヘキモ其企圖及意見ハ果シテ露国ニ有利ナルヤ否ヤハ未タ見当付カス此將軍ノ地位ハ日本ノ脅威ノ為甚タ困難ナル關係ニ在ルカ故ニ民族革命派ノ勢力カ支那南北ノ統一ニ依リテ確立シ露国ハ米国トノ關係カ明瞭トナルハ断案ヲ下スヲ得シ(米国ノ態度如何ニ依リ極東ニ於テ露、支、米連合若ハ露、支、日連合ノ何レカ成立スル可能性アリ若此二者共ニ成立セサルトキハ支那ハ政治的孤立ニ陥ルヘシ)露国外交ハ最後迄露、支、米連合ノ成立ニ努力シタルモ最近ニ至リ「カラハン」及中央執行委員ノ有力者ハ日本ニ於テ社会的革命ノ下地ノ存在セサルコトヲ認識シ中央執行委員ハ日本ト接近スル政策ヲ提議スルニ至レリ其意ハ日本トノ衝突ヲ避ケ事実上余裕ヲ得ントスルニ在リ然ラサレハ近キ将来ニ於テ日本ト紛争ヲ起スコトヲ避ケ得サルヘシ右ニ関シ中央執行委員ハ未タ最終ノ決定ヲ為サス恐ラク十二月十二日莫斯科ヨリ東京ニ赴キタ

「ソビエツト」領内ニ精兵「パルチザン」隊ヲ準備シ又同革命ヲ指導スヘキ鮮人幹部ヲ養成スル事

(c)日本軍隊各地共產主義細胞ヲ設置シ將卒ノ離間ヲ計リ軍備ノ破壊ヲ企ツルコト

(d)南樺太、膠州、関東州、台湾及ヒ南洋諸島在住外人間ニ排日思想ヲ扶植スルト同時ニ日本人間ニ排米思想ヲ誘発セシムル事

(三)特別任務

(a)陸海軍外務省大商工業会社及ヒ地方自治体ヲ眼目トシテ通信網ヲ布設スルコト

(b)新聞及ヒ輿論ヲ庇護シテ対支干渉反対及ヒ日支親善ヲ鼓吹セシムル事

(c)日本商工業者ヲシテ露国トノ共同事業ヲ営マシメ親露感情ヲ誘発セシムル事

(d)日本ノ華府会議協定違反ヲ故意ニ宣伝シ日米戦争ヲ煽動スル事

右ノ遂行ニ対シ在日本大使館領事館及ヒ通商代表ハ十分ノ援助ヲ与フル外在日本大使機密費中ヨリ費用ノ支出ヲナスヘシ

四外交人民委員ノ決議ニ基キ貴下ハ東京本部長トシテ大阪、神戸、横浜、長崎、函館、名古屋及ヒ下ノ関ノ各支部ヲ統轄シ尚京都、広島、呉、金沢、仙台、福岡、札幌、横須賀、小樽、岡山、鹿児島、門司及和歌山ヘ支部並ニ細胞ノ配置、^③プンジ改造ハ貴下ニ一任ス台北支部ハ本部ノ掌轄ヲ離レ長崎ノ指揮下ニ属セシメ朝鮮京城本部ハ釜山ヲ經テ下ノ関ト元山ヲ經テ浦潮ト連絡ヲ保チ青島及ヒ大連支部ハ日本区ノ権限ニ属スル諸件ニ関シ長崎ニ隸属シ在南洋諸島細胞ノ設置監督ハ之ヲ貴下ニ一任ス

(四)大使館職員通商代表属員トシテ日本区ニ在ル諸運動員並ニ「アレキサンドロフ」(浦潮)「マツヲキン」(哈爾賓)「ヘルシユコウイチ」(寛城子、奉天、大連)及ヒ「グロスマン」(浦潮、元山、釜山、下ノ関)ノ諸員並ニソノ部下モ又貴下ノ指揮下ニ立タシム同志「サイルジ」及ヒ「イビン」(広東、北京)ト連絡ヲ保チ相互ノ運動ヲ撞着セシメサル様努ムル事此ノ詳細ノ命令及ヒ報道ハ時々「コツプ」ヲ通シ電達ス

事項一四 ソ連邦ノ対外関係

四五九 一月八日 在リガ上田書記官ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

財政的困難ト党内紛争ノタメソヴィエト政府

ハ近キ将来自壊ストノ当地記者ノ観測ニツキ

報告ノ件

第一号(暗) (一月九日接受)

七日夜当地新聞協會開会式ノ際露西亞通ノ名アル二、三主ナル記者カ本官ニ語リシ所ヲ綜合スルニ労働政府カ外債絶望ノ為メ極端ニ金ニ窮シ国営事業収支償ハス共產党内訌ノ結果支部ハ本部ノ命ニ従ハサルノ傾向ヲ来シ農民ハ共產黨員ヲ憎ミ到ル所同黨員及官吏ヲ袋叩キニシ労働者中ニ共產党ヲ脱シテ所謂無所属党ニ加担スル者多ク兵卒ハ次第第二無所属ニ加担シ加フルニ同政府ノ外政機關タル「第三インタナショナル」ハ今ヤ欧米諸国共同作戦ノ的トナリタリトシテ右記者ハ同政府カ一步一步最後ノ運命ニ向テ進ミツツアリトシ其倒ルル時期案外早ク本年上半年ニ来ルヘシトナ

一四 ソ連邦ノ対外関係 四五九 四六〇

スモノ多シ

当国外務省露西亞課長ノ如キモ同政府ハ本年中ニ最後ヲ告クヘシトノ見解ヲ有ス

四六〇 一月十六日 在浦潮渡辺総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ヒューズ國務長官ノ辞任ニヨリ米國ノ対ソ連

政策転換近シトノ観測記事ニ関スル件

第四号

往電第三号ニ関シ

果機關ハ爾来連日「ヒューズ」ノ辞任ハ「ボラー」ノ勝利ニテ「ボ」ト「クリーリッジ」ノ意見一致ハ米ノ対外政策殊ニ対露方針転換ヲ来ス可ク追テハ「ソヴィエト」承認審議會ヲ命スヘシトノ紐育伯林巴里等来電ヲ載セアルカ本十六日社説ニテ「ヒューズ」ノ執リタル西比利亞出兵以来ノ態度殊ニ華盛頓會議以来ノ対露惡宣伝(脱)「パナマ」「ドウ

七一五